

愛媛大学キャンパスマスタープラン2025



Ehime University Campus Master Plan 2025

目次

I. キャンパスマスタープラン概要		II. 城北キャンパス		IV. 樽味キャンパス	
キャンパスマスタープランの目的・位置づけ	・・・Ⅰ	城北キャンパス概要	・・・Ⅱ 0	樽味キャンパス概要	・・・Ⅲ 0
キャンパスマスタープラン2025の基本方針	・・・Ⅳ	施設の現状と課題	・・・Ⅱ Ⅰ	施設の現状と課題	・・・Ⅲ Ⅰ
愛媛大学イノベーション・commons（共創拠点）の実装化と地域の防災拠点の実現に向けて	・・・Ⅴ	施設の建築年	・・・Ⅱ Ⅱ	施設の建築年	・・・Ⅲ Ⅱ
キャンパスマスタープラン2016の検証	・・・Ⅶ	施設整備計画	・・・Ⅱ Ⅲ	施設整備計画	・・・Ⅲ Ⅲ
愛媛大学における施設・ライフラインの現状と課題	・・・Ⅰ 0	ゾーニング計画	・・・Ⅱ Ⅳ	ゾーニング計画	・・・Ⅲ Ⅳ
今後の施設整備計画	・・・Ⅰ Ⅰ				
戦略的な施設マネジメントの推進	・・・Ⅰ Ⅳ				
愛媛大学キャンパス概要	・・・Ⅰ Ⅸ				
		III. 持田キャンパス		V. 重信キャンパス	
		持田キャンパス概要	・・・Ⅱ Ⅴ	重信キャンパス概要	・・・Ⅲ Ⅴ
		施設の現状と課題	・・・Ⅱ Ⅵ	施設の現状と課題	・・・Ⅲ Ⅵ
		施設の建築年	・・・Ⅱ Ⅶ	施設の建築年	・・・Ⅲ Ⅶ
		施設整備計画	・・・Ⅱ Ⅷ	施設整備計画	・・・Ⅲ Ⅷ
		ゾーニング計画	・・・Ⅱ Ⅸ	ゾーニング計画	・・・Ⅲ Ⅸ

キャンパスマスタープランの目的・位置づけ

愛媛大学は、昭和24年に新制国立大学として、松山高等学校、愛媛師範学校、愛媛青年師範学校、新居浜工業専門学校を母体として文理学部、教育学部、工学部の3学部で発足し、昭和29年に松山農科大学を母体とする農学部、昭和48年に新設の医学部、平成28年には社会共創学部が加わり、現在では法文学部、教育学部、社会共創学部、理学部、医学部、工学部、農学部の7学部と大学院8研究科からなる学生約1万人を擁する四国最大の総合大学となり、その間、社会の知的・文化的水準の向上に貢献するとともに、さまざまな分野で多くの優れた人材を世に送り出してきました。

平成16年4月1日、愛媛大学は国立大学法人愛媛大学となり、国の一機関の立場を離れ独立した経営体として再出発することとなり、この大変革期にあたり、「地域とともに輝く大学」を目指す愛媛大学は、その理念と目標を「愛媛大学憲章」に定めました。

地域に立脚する総合大学として「これからの愛媛を支える人材育成」「世界に誇れる研究」「地域に輝く大学」「世界に貢献する大学」の実現をめざし、教育・研究・社会連携においてさまざまな意欲的な取組を行っています。

大学キャンパスは、教育研究活動の基盤であるとともに、学生は学習の場であり、安全・安心そして魅力的で調和のとれた質的向上が求められています。教育研究の基盤となるキャンパスの整備・活用を図るためにアカデミックプランや経営戦略と密接な関係を構築し、キャンパス環境整備を計画的・継続的・積極的に進めるため、長期的な視野に立ったキャンパス整備計画「キャンパスマスタープラン」を策定しました。

◎キャンパスマスタープランの必要性

本学が目指す「地域とともに輝く大学」「学生中心の大学」の展開を考えることにおいて、その活動を支えるキャンパス環境整備は将来にわたり計画的・継続的・積極的に実施されるべき不可欠な課題であり、魅力的な施設整備や既存施設及び敷地の有効な活用等に着目し調和のとれたキャンパスづくりが必要であり、新たな施設整備に主眼をおき長期視点に立った「キャンパスマスタープラン」を策定し計画的な整備の取組みが求められている。

◎キャンパスマスタープランの役割

- 1) 学長のリーダーシップのもと、戦略構想やアカデミックプランの実現を、環境や施設の側面から支援できること
- 2) キャンパスの将来像について、学内外の関係者が共通認識をもてること
- 3) 産学連携の場を明示することにより、共同研究・受託研究の推進に寄与できること
- 4) キャンパスの整備への投資に対して、必要性・緊急性を説明、提示できること
- 5) 施設整備の計画と整合のとれた中長期的な修繕計画の立案、実施できること

◎キャンパスマスタープラン策定の効果

- 1) 既存施設の高度化・多様化など教育研究活動に対応した計画的な整備
- 2) 調和のとれたキャンパス景観の形成
- 3) 学生等の利用者の視点に立ったキャンパス環境の充実
- 4) 大学の戦略を推進するキャンパスの活用
- 5) キャンパスの整備に対する課題・問題の整理



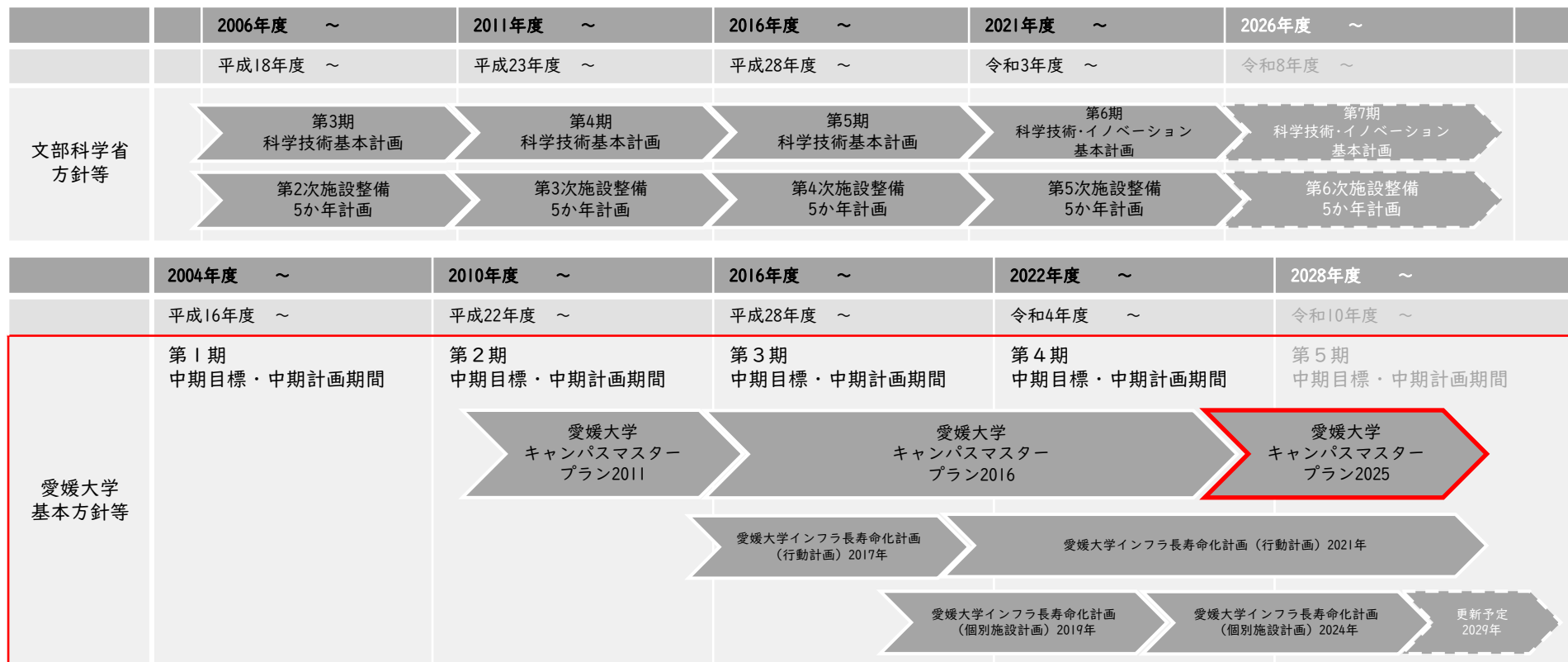
<愛媛大学キャンパスマスタープラン>

「歴史を知る」→「今を知る」→「未来を考える」

◎キャンパスマスタープランの位置づけ

キャンパスマスタープラン2025では、本学の基本理念・目標に基づき、長期的な視野の整理を行うとともに、愛媛大学第4期中期目標・中期計画期間（令和4年度～令和9年度）を対象にキャンパスマスタープランを策定。具体的な整備計画及び活用計画について、『愛媛大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画）』等と連動し、大学を取り巻く環境の変化に対応することとする。

なお、**キャンパスマスタープラン策定・見直しについては、5年毎を目途**であるが、必要に応じて随時見直すものとする。



◎国立大学法人愛媛大学 第4期中期目標・中期計画
URL：<https://www.ehime-u.ac.jp/about/4th-medium-term/>

◎文部科学省 第5次国立大学法人等施設整備5か年計画（令和3～7年度）
URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/kokuritu/1318409_00001.htm

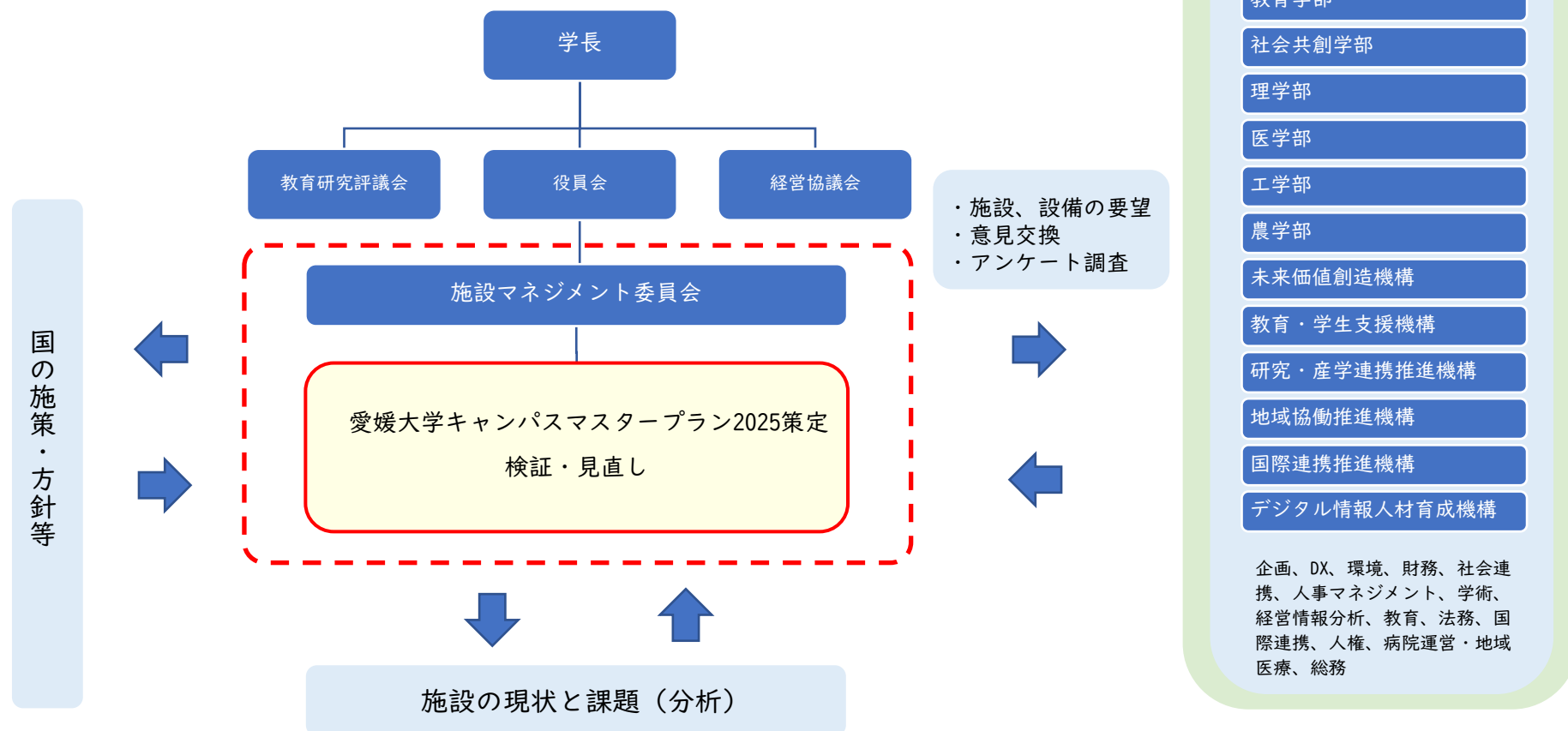
◎愛媛大学インフラ長寿命化計画（行動計画）
URL：<https://shisetsu.office.ehime-u.ac.jp/contents/shisetsukikaku/>

◎愛媛大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画）
URL：<https://shisetsu.office.ehime-u.ac.jp/contents/shisetsukikaku/>

◎キャンパスマスタープランの役割とプロセス

本学の施設マネジメントの実施体制として、学長を委員長、各理事・学部長等を構成員とする「施設マネジメント委員会」により、全学的視点から優先的課題に対する施設整備を推進している。

魅力あるキャンパスづくりのためには、中長期的視点に立ったビジョンを教職員や地域住民等、学内外の様々なステークホルダーと情報共有を図り、キャンパスの課題解決に取り組みながら全体としてキャンパスの発展を図ることが重要であり、プロセスと体制を構築する。



キャンパスマスタープラン2025の基本方針

愛媛大学の基本理念である、「学生中心の大学」「地域とともに輝く大学」「世界とつながる大学」にふさわしいキャンパス整備の実現を目標とする。目標を実現化するために、愛媛大学憲章、第4期中期目標・中期計画、及び第5次施設整備5か年計画の重点目標である『キャンパス全体をイノベーション・コモンズ（共創拠点）へ』に視点を置き、高度化・多様化に対応する教育研究環境、安全・安心なキャンパス環境の整備を目指し、以下にキャンパスマスタープラン4つの基本方針を定める。

1. 高度化・多様化する教育研究環境のキャンパス形成

- (1) 施設の効果的・効率的な利用を図り、共同利用スペース等を利用した萌芽的研究の発掘・育成を実現する総合的・複合的な施設の整備を図る。
- (2) 学生が主体的・能動的に学ぶスペースの創出を図る。
- (3) 既存施設の自己点検・評価を行い、老朽・狭隘の実状を的確に把握し、計画的な改修計画を推進し、既存施設の活性化を図る。
- (4) 授業の多様化、学生・地域住民・高齢者等さまざまなニーズに対応可能にする。

2. 地（知）の拠点となり地域社会との共創を重視した教育研究・医療環境キャンパスづくり

- (1) 地域協働推進機構を中心とする連携に対応できるよう、外部からのアクセスや学内施設の利用等に配慮する。
- (2) 地域産業の活性化や地域イノベーションを創出する人材育成に取り組み、地域のステークホルダーとの共創・協働により、地域産業の課題を解決し、産業イノベーション強化を図る施設ゾーンをE.U. Regional Commonsを中心に据え計画する。
- (3) 高度先進医療・高度診療の場として、質の高い医療の提供、患者サービスの向上のための高機能整備を行う。

3. 世界に伍する学術研究キャンパスづくり

- (1) 世界的レベルの3研究センター（沿岸環境科学研究センター・地球深部ダイナミクス研究センター・プロテオサイエンスセンター）の活動の一層の活性化を図る。
- (2) 先進的な研究プロジェクトや若手研究者等のための研究スペースを確保する。
- (3) 施設の高層化・集約化を図り、将来の施設需要への対応用地を確保する。

4. 安全・安心なキャンパスづくり

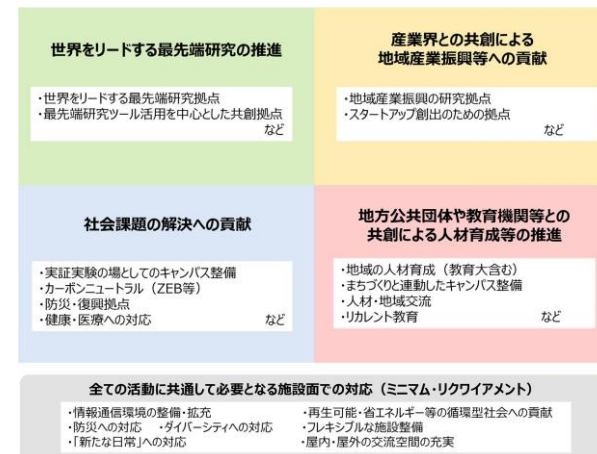
- (1) 安全・安心な教育研究環境を確保するために、老朽化した基盤的設備の改修および機能不足が否めない老朽施設の改修を計画的に進める。
- (2) インフラ長寿命化計画に基づく計画的な「予防保全」により、経済的・効率的な維持管理、展開性・将来性を見据えた保有面積の抑制等を図る。
- (3) 改修等によるZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の達成を目指す取組等、カーボンニュートラルの実現に向け、徹底した省エネルギー対策を図る。
- (4) 災害に強いインフラ整備の改善により、災害拠点病院や地域の避難所等としての防災機能の強化を図る。

愛媛大学イノベーション・コモンズ（共創拠点）の実装化と地域の防災拠点の実現に向けて

◎国立大学等キャンパス・施設の目指すべき方向性

-第6次国立大学法人等施設整備5か年計画(R8～12年度)策定に向けた中間まとめ-
「今後の国立大学法人等施設の整備充実に関する調査研究協力者会議」

- Society 5.0 の実現に向け、地域における課題解決や新たなイノベーション創出等の視点から、ソフト・ハード一体となった教育環境の充実を図る。
- 学生や教職員、地域や産業界等の社会の多様なステークホルダーが大学等のキャンパス・施設を最大限活用し共創することで、新たな価値等を生み出していくことが重要である。
- 災害発生時に学生・教職員や多様なステークホルダー等の安全確保及び教育研究活動を継続するとともに、災害拠点病院や避難所など地域の防災拠点として、耐災害性の強化に加え、防災機能を強化することが重要である。



◎文部科学省 共創活動を支えるキャンパス・施設整備の 카테고리

◎イノベーション・コモンズ（共創拠点）の実装化と地域の防災拠点の実現に向けた整備の考え方

- ◎デジタル技術も駆使したハイブリッド型環境の整備
- ◎成長分野等の社会課題に対応した人材育成・研究を支える環境整備
- ◎地域を中心とした産学官連携強化による人材育成を支える環境整備
- ◎多様な主体に開かれた魅力ある環境整備
- ◎グローバル化に対応した国際競争力のある環境整備
- ◎災害発生時、安全確保及び教育研究活動が継続できる環境整備
- ◎地域の避難所等としての防災機能を強化する環境整備

「イノベーション・コモンズ」のイメージ

「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」とは

- ・あらゆる分野、あらゆる場面で、あらゆるプレーヤーが共に創造活動を展開する「共創」の拠点
 - ・教育研究施設の個別の空間だけでなく、食堂や寮、屋外空間等も含め **キャンパス全体が有機的に連携**した「共創」の拠点
 - ・対面とオンラインのコミュニケーションが融合し、**ソフトとハードが一体**となって取り込まれる「共創」の拠点
- ⇒多様な学生・研究者や異なる研究分野の「共創」、地域・産業界との「共創」の促進等により、**教育研究の高度化・多様化・国際化、地方創生や新事業・新産業の創出に貢献**



◎文部科学省 「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画」の公表について
-第5次国立大学法人等施設整備5か年計画（概要）資料抜粋-

(施設整備の概念)

老朽改修に併せて実施する機能強化等への対応はキャンパス全体のイノベーション・コモンス化に資する整備を推進。

(方策)

- ◎教育研究の活動である「ソフト」と、その活動の場となる施設「ハード」が一体となって施設整備を図る。
- ◎各主体のリソースの最大活用、協力関係の構築。



地域交流

人材育成



先端的研究拠点

＜愛媛大学イノベーション・コモنز＞
地域社会に開かれた
「共創拠点」の場

地域産業の振興



グローバル化・国際競争



- ◎個々のキャンパス及び施設における共創空間づくり（多様なステークホルダーの交流・対話を誘発）。

キャンパスマスタープラン2016の検証

◎点検・評価

キャンパスマスタープラン2016においては、第3期中期目標・中期計画及び第4次国立大学法人等施設整備5か年計画の重点整備である「安全・安心な教育研究環境の基盤の整備」、「国立大学等の機能強化等変化への対応」、「サステナブル・キャンパスの形成」に視点を置き、高度化・多様化に対応する教育研究環境、安全・安心なキャンパス環境整備を目指した基本方針である。

安全・安心な教育研究環境を確保するため、建物の老朽改善を図るものとされており、本学の施設の老朽改善は喫緊の課題であった。目標整備を計画的に進め、一定規模の成果は得られたが、十分に達成できていない部分もある。キャンパスマスタープラン2016について検証を行い、施設マネジメントの成果等を客観的に見つめ直し、その結果をキャンパスマスタープラン2025に反映することが重要である。

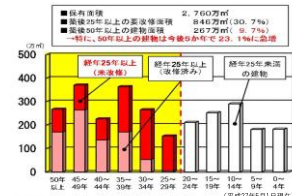


◎愛媛大学キャンパスマスタープラン2016（城北キャンパス）

第4次国立大学法人等施設整備5か年計画（平成28～32年度）

国立大学等の施設が抱える課題

- 施設、基幹設備（ライフライン）の老朽化による教育研究基盤の弱体化
- 国立大学等の機能強化等への対応
- 地球環境問題への対応 など



今後の国立大学法人等施設の整備
充実に関する調査研究協力者会議
（平成28年3月報告）

第5期科学技術基本計画
（平成28年1月22日閣議決定）
国が策定する国立大学法人等の全体の施設整備
計画に基づき、安定的・継続的な支援を通じて、
計画的・重点的な施設整備を進める。

第4次国立大学法人等施設整備5か年計画（平成28～32年度）

平成28年3月29日 文部科学大臣決定

重点整備

安全・安心な教育研究環境の基盤の整備

- 耐震対策（非構造部材を含む）や防災機能強化に配慮しつつ、長寿命化改修を推進
- 老朽化した基幹設備（ライフライン）を更新

国立大学等の機能強化等変化への対応

- 大学等の機能強化に伴い必要となる新たなスペースを確保
- 長寿命化改修に合わせ、機能強化に資する整備を実施
- ・ラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・スペースの導入を推進
- ・地域産業を担う地域人材の育成など、地域と大学の連携強化のための施設整備を実施
- 大学附属病院の再開発整備の着実な実施

サステナブル・キャンパスの形成

- 今後5年間でエネルギー消費原単位を5%以上削減
- 社会の先導モデルとなる取組を推進

推進方策

戦略的な施設マネジメントの取組の推進

- ①施設マネジメントの推進のための仕組みの構築
 - 経営者層のリーダーシップによる全学的体制で実施
- ②施設の有効活用
 - 経営的な視点での戦略的な施設マネジメントの下、施設の有効活用を積極的に行う
 - 保有面積の増大は、施設管理コストの増大につながるため、保有建物の総面積抑制を図る
- ③適切な維持管理
 - 予防保全により良好な教育研究環境を確保
 - 光熱水費の可視化等による維持管理費等の削減や必要な財源の確保のための取組を進める

多様な財源を活用した施設整備の推進

- 大学等は、国が施設整備費の確保に努める一方、資産の有効活用を含め、多様な財源を活用した施設整備を一層推進

整備目標

老朽改善整備 約475万㎡	狭隙解消整備 約40万㎡	大学附属病院の再生 約70万㎡
------------------	-----------------	--------------------

所要経費：約1兆3,000億円

質の高い、安全な教育研究環境の確保

◎主な成果（施設整備建物等）

文部科学省の第4次国立大学法人等施設整備5か年計画の整備目標「老朽改善整備」「狭隘解消整備」「大学附属病院の再生」を掲げられた3つの目標について、本学の施設整備建物の成果を検証してみた。

延べ面積44,600㎡の建物について、老朽改善が大きく進展した。

愛媛大学 <2016～2025年 整備実績>		
老朽改善整備	狭隘解消整備	大学附属病院の再生
44,600㎡	4,440㎡	-

整備事業一覧（2016～2025年）：

：国からの予算措置 ：多様な財源（運営費交付金、寄附金等の自己資金）

第4次国立大学法人等施設整備5か年計画					第5次国立大学法人等施設整備5か年計画				
2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7
高压ガスボンベ庫 30 ㎡	紙産業イノベーションセンター 690 ㎡	工学部2号館 (4,650) ㎡	工学部2号館 (3,710) ㎡	教育学部2号館 (2,950) ㎡	共通講義棟A (2,950) ㎡	附属中学校本館 (4,240) ㎡	学術支援センター (物質科学研究支援部門) (1,010) ㎡	共通講義棟B (1,910) ㎡	農学部三科実験室 (480) ㎡
南加記念ホール (非構造部材耐震対策)	附属中学校部室 130 ㎡	持田囲障 (ブロック塀対策)	教育学部2号館 (3,160) ㎡	附属小学校本館 (2,060) ㎡	附属病院多用途トリアージ施設 200 ㎡	附属中学校職員室 (210) ㎡	附属農場管理棟 (1,090) ㎡	医学部本館 (570) ㎡	農学部農業工学実験室 (240) ㎡
東長戸宿舍 (職員宿舍耐震補強)	(持田)多目的室 80 ㎡	城北囲障 (市道拡張整備)	附属高校校舎 (3,150) ㎡	附属小学校・センター棟 (1,760) ㎡	E.U. Regional Commons 720 ㎡	附属中学校音楽教室 (280) ㎡	農学部会館 (440) ㎡	E.U. Innovation Commons 1,550 ㎡	農学部実験室 (370) ㎡
		山越囲障 (外周フェンス)	附属幼稚園本館 (240) ㎡	附属小学校校舎 (1,350) ㎡	農学部会館 (400) ㎡	教育学部4号館 (2,520) ㎡	地盤実験棟 50 ㎡		第1体育館 (2,260) ㎡
			附属幼稚園園舎 (690) ㎡	医学部臨床研究棟 (1,600) ㎡					情報教育棟 1,190 ㎡
			農学部大講義室 (310) ㎡						
30 ㎡	900 ㎡	4,650 ㎡	11,260 ㎡	9,720 ㎡	4,270 ㎡	7,250 ㎡	2,590 ㎡	4,030 ㎡	4,540 ㎡

※ (***) ㎡は、老朽改善整備：改修を示す。
その他、狭隘解消整備：新営を示す。

キャンパスマスタープラン2016

：国からの予算措置 ：多様な財源（運営費交付金、寄附金等の自己資金）



2018年 紙産業イノベーションセンター



2020年 工学部2号館



2021年 教育学部2号館



2022年 E.U. Regional Commons



2024年 E.U. Innovation Commons



2017年 附属中学校部室



2019年 キャンパス東側囲障



2021年 医学部臨床研究棟



2021年 共通講義棟A



2023年 教育学部4号館

◎主な成果（基幹設備・ライフライン整備）

国の施策である「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」のインフラ重点整備により、各キャンパスでの基幹設備・ライフライン整備が大きく進展した。

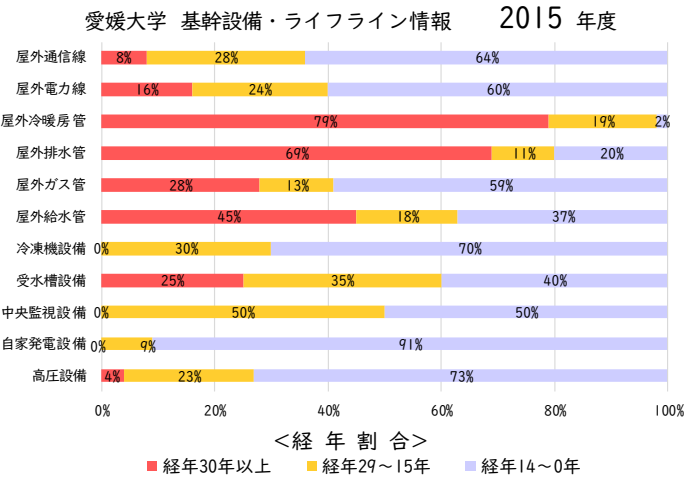


2017年 撤去給水管



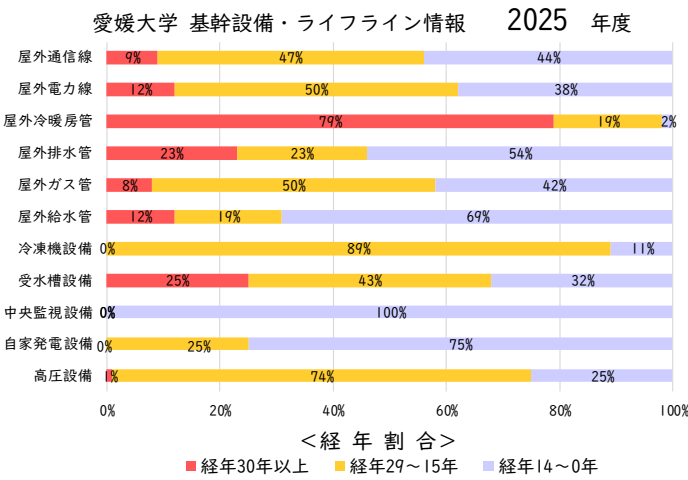
2017年 更新給水管

ライフライン再生 老朽化対策の伸び率



整備事業一覧（2016～2025年）：

年度	団地	事業名	整備内容	基幹設備（台）					ライフライン（m）					
				高圧	自家発	中央監視	受水槽	冷凍機	給水	ガス	排水	冷暖房	電力	通信
2016	城北	ライフライン再生	給水・ガス						1,250	550				
2017	城北	ライフライン再生（給水設備等）	給水・ガス・高圧	2					830	470				
	持田	ライフライン再生（排水設備等）	給水・ガス・排水						250	40	580			
	樟味	ライフライン再生（給水設備等）	給水・ガス				1		890	780				
2019	持田	ライフライン再生（給排水設備等）	給水・ガス・排水・高圧・電力	3					950	230	2,200		495	
	城北	ライフライン再生（電気設備）	高圧・電力・中央監視											
2020	城北	ライフライン再生（給排水設備）	排水	2		1					2,100		555	
2021	城北	ライフライン再生（給排水設備）	排水								2,330			
	樟味	ライフライン再生（給排水設備）	排水								960			
2022	城北	ライフライン再生（給排水設備）	排水								2,090			
2023	城北	ライフライン再生（給排水設備）	排水								1,960			
2024	重信	ライフライン再生（給排水設備）	給水・排水						460		1,490			
2025	重信	ライフライン再生（給排水設備）	給水・排水						520		1,230			
合 計				7	0	1	1	0	5,150	2,070	14,940	0	1,050	0



<経年30年以上の老朽化対策率>

◎屋外排水管
▲46％削減

◎屋外給水管
▲33％削減

愛媛大学における施設・ライフラインの現状と課題

◎施設の現状と課題

本学は、約37万㎡の建物を保有しており、その内、経年25年以上の老朽化により改修を必要とする面積は約11万㎡であり、全体の29.8%を占めている。

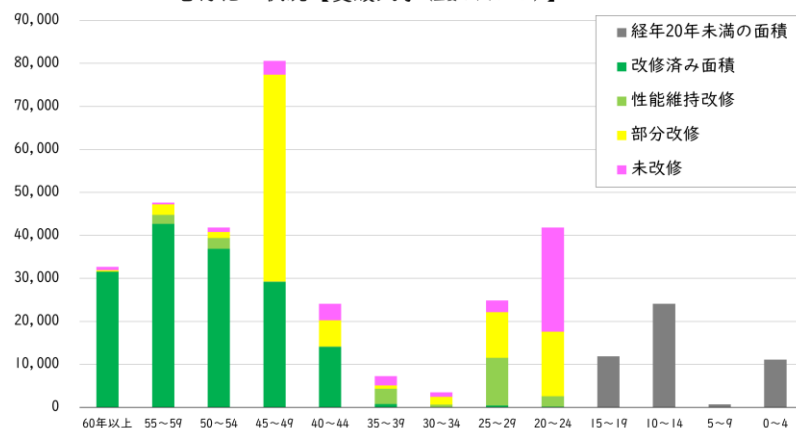
昭和40～50年代の建物（経年40年以上）を多く保有し、一斉に老朽化のタイミングを迎えている中、本学では少しずつではあるが、老朽改善整備が進展している。なお、新たに老朽化が進行される施設が増加することとなるため、計画的及び重点的な施設整備を図る必要がある。

その中でも、経年20～34年以上の未改修建物については、インフラ長寿命化計画に基づき、※）性能維持改修を推進する必要がある。また、経年45～49年の老朽化施設については、附属病院施設（約5万㎡）は喫緊の課題である。

※）性能維持改修・・・建物躯体を健全に保つための
屋上防水、外壁等の外部改修。

老朽化の状況【愛媛大学（主要4キャンパス）】

令和7年5月1日



◎基幹設備・ライフラインの現状と課題

本学のライフラインについて、キャンパスマスタープラン2016の検証のとおりの国の施策における国土強靱化により集中的に更新を進めることとし、おおむね法定耐用年数の2倍を超える老朽化の配管配線については、2024年現在では整備が大きく進展している状況である。

今後の課題として、屋外通信線（防災・電話配線等）については建物老朽化に併せて更新を図ることとし、屋外冷暖房管及び屋外排水管については、老朽化施設と同様に、附属病院施設への供給ライフラインが喫緊の課題である。

通常の維持管理では対応できない老朽化の著しい基幹設備・ライフラインについて、未然に事故を防止し、多様なステークホルダー等の安全確保や教育研究活動を継続するための災害体制の強化、災害拠点病院や地域の避難所等としての防災機能の強化を目的とする。おおむね法定耐用年数の2倍を超えるものについて、今後も注視し、計画的に整備を進める。

主要4キャンパス 令和7年5月1日

経過年数	◆基幹設備情報（単位：台）◆					◆ライフライン（配管等）情報（単位：m）◆					
	高压	自家発	中央監視	受水槽	冷凍機	給水	ガス	排水	冷暖房	電力	通信
法定耐用年数の2倍以上	3	0	0	11	0	1,666	420	7,106	3,568	4,864	11,586
法定耐用年数以上かつ 法定耐用年数の2倍未満	172	3	0	19	17	2,577	2,564	7,160	854	19,621	62,017
法定耐用年数未満	59	9	3	14	2	9,091	2,184	16,334	68	14,452	57,687
合 計	234	12	3	44	19	13,334	5,168	30,600	4,490	38,937	131,290

令和7年5月1日

面積区分	面積・整備状況			
	必要面積	保有面積		老朽化率
		要改修面積		
大学教育・研究施設	20.3	19.2	4.2	21.8%
大学図書館	1.7	1.0	0.3	27.7%
大学体育施設	0.5	0.8	0.2	22.4%
大学支援施設	1.2	1.4	0.5	33.5%
大学宿泊施設	0.8	1.6	0.2	13.5%
附属学校	3.6	3.1	0.6	19.2%
大学管理施設	1.1	2.3	0.2	9.7%
大学設備室等	1.4	1.6	0.8	50.9%
計(附属病院を除く)	30.7	31.0	7.0	22.4%
附属病院	6.0	6.7	4.2	62.5%
計(附属病院を含む)	36.7	37.7	11.2	29.6%



今後の施設整備計画

施設整備計画表（2025～2030年）：

：国からの予算措置

：多様な財源（運営費交付金、寄附金等の自己資金）

令和7年5月1日現在

NO.	団地	事業名	規 模	愛媛大学整備方針 カテゴリー	財 源 (予 定)	構造 ・ 階	改修 面積 (㎡)	：建物名 ：事業内容	経年	キャンパスマスタープラン2025						
										第4期 中期目標・中期期間			第5期 中期目標・中期期間			
										2025	2026	2027	2028	2029	2030	
										R7	R8	R9	R10	R11	R12	
1	重信	ライフライン再生（給排水設備等）	大規模改修	安全・安心の確保	施設整備費補助金	-	-	：重信団地構内	：ライフライン更新	50	●					
2	樽味	実験実習棟改修（農学系）	大規模改修	機能強化等への対応	施設整備費補助金	R3	(480)	：農学部三科実験室	：機能改善	66	●					
3	樽味	実験実習棟改修（農学系）	大規模改修	機能強化等への対応	施設整備費補助金	S1	(240)	：農学部農業工学実験室	：機能改善	57	●					
4	樽味	実験実習棟改修（農学系）	大規模改修	機能強化等への対応	施設整備費補助金	R1	(370)	：農学部実験室	：機能改善	54	●					
5	城北	屋内体育施設改修	大規模改修	安全・安心の確保	施設整備費補助金	R2	(2,260)	：第1体育館	：老朽改善	57	●					
6	樽味	基幹・環境整備(空調設備)	中規模改修	安全・安心の確保	施設整備費補助金	-	-	：附属高校体育館	：空調設置	-	●					
7	城北	大学・高専機能強化支援事業	新営	機能強化	大学・高専成長分野 転換支援基金助成金	S3	1,200	：情報教育棟	：新営	-	●					
8	城北	屋内体育施設改修	大規模改修	安全・安心の確保	施設整備費補助金	RS2	(1,870)	：第2体育館	：老朽改善	44		●				
9	持田	基幹・環境整備(空調設備)	中規模改修	安全・安心の確保	施設整備費補助金	-	-	：附属小学校・中学校・特別支援学校体育館、講堂	：空調設置	-		●				
10	城北	ライフライン再生（排水設備等）	大規模改修	安全・安心の確保	施設整備費補助金	-	-	：城北団地構内	：ライフライン更新	38		●				
11	城北	学生支援センター改修	大規模改修	安全・安心の確保	施設整備費補助金	R3	(2,360)	：大学会館	：老朽改善	47		●				
12	城北	総合研究棟改修（法文学系）	大規模改修	安全・安心の確保	施設整備費補助金	SR8	(2,650)	：法文学部本館	：老朽改善	42						
13	樽味	総合研究棟改修（大学院連合農学系）	大規模改修	安全・安心の確保	施設整備費補助金	R4	(1,320)	：連合農学研究科	：機能改善	37			●			
14	城北	総合研究棟改修（情報工学系）	大規模改修	機能強化等への対応	施設整備費補助金	SR8	(3,570)	：工学部4号館	：機能改善	35				●	●	
15	樽味	総合研究棟改修（農学系）	大規模改修	安全・安心の確保	施設整備費補助金	R5	(1,730)	：農学部3号館	：老朽改善	33						●
16	城北	社会共創学部本館/総合研究棟2空気調和設備改修事業	中規模改修	法的規制・省エネ	多様な財源	-	-	：社会共創学部本館/総合研究棟2	：空調改修	22	●	●	●			
17	城北	総合情報メディアセンター（南棟）外壁防水改修事業	中規模改修	法的規制・安全対策	多様な財源	-	-	：総合情報メディアセンター（南棟）	：外壁・防水改修	24	●					
18	城北	総合情報メディアセンター（北棟）外壁防水改修事業	中規模改修	法的規制・安全対策	多様な財源	-	-	：総合情報メディアセンター（北棟）	：外壁・防水改修	21		●				
19	持田	附属小学校体育館外壁等改修事業	中規模改修	法的規制・安全対策	多様な財源	-	-	：附属小学校体育館	：外壁、雨樋	17		●				
20	御幸	学生宿舍整備事業	中規模改修	法的規制・省エネ・学生支援	多様な財源	-	-	：御幸学生宿舍 A・B・C・D棟	：空調、照明、給湯、 消防設備改修	14		●	●			
21	城北	総合情報メディアセンター（北棟）空気調和設備改修事業	中規模改修	法的規制・省エネ	多様な財源	-	-	：総合情報メディアセンター（北棟）	：空調改修	22			●			
22	城北	工学部5号館外壁防水改修事業	中規模改修	法的規制・安全対策	多様な財源	-	-	：工学部5号館	：外壁・防水改修	23			●			
23	城北	工学部本館トイレ改修事業	中規模改修	衛生環境改善・学生支援	多様な財源	-	-	：工学部本館	：トイレ改修	28			●			
24	樽味	農学部2号館トイレ改修事業	中規模改修	衛生環境改善・学生支援	多様な財源	-	-	：農学部2号館	：トイレ改修	23			●			
25	重信	屋内体育施設屋根外壁改修	中規模改修	安全・安心の確保	多様な財源	-	-	：体育館	：屋根、外壁改修	25			●			
26	城北	総合研究棟1外壁防水改修事業	中規模改修	法的規制・安全対策	多様な財源	-	-	：総合研究棟1	：外壁・防水改修	22				●		
27	城北	工学部5号館空気調和設備改修事業	中規模改修	法的規制・省エネ	多様な財源	-	-	：工学部5号館	：空気調和設備改修	24				●	●	
28	樽味	附属高校体育館照明・トイレ改修事業	中規模改修	衛生環境改善・省エネ	多様な財源	-	-	：附属高校体育館	：屋根	31					●	
29	樽味	農学部本館整備事業	中規模改修	法的規制・安全対策・省エネ	多様な財源	-	-	：農学部本館	：外壁、防水、照明、空調改修	16					●	
30	樽味	環境産業研究施設整備事業	中規模改修	法的規制・安全対策・省エネ	多様な財源	-	-	：環境産業研究施設	：外壁、防水、照明	23						●
31	重信	学術支援センター整備事業	中規模改修	法的規制・安全対策・省エネ	多様な財源	-	-	：学術支援センター	：外壁、防水、照明、空調改修	16						●
32	城北	総合研究棟1空気調和設備改修事業	中規模改修	法的規制・省エネ	多様な財源	-	-	：総合研究棟1	：空調改修	23						●

備 考

- ・愛媛大学第4期中期目標・中期期間に基づき作成。
- ・愛媛大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画）に基づき作成。
- ・愛媛大学施設整備基本方針に基づき、各部局の要望事項等を反映。
- ・国の財政状況及び本学の方針による予算配分の状況により変更が生じる場合がある。

※次ページ「施設整備計画の考え方」 ↓

◎施設整備計画の考え方

前項、施設整備計画表においては、随時見直しを行うものである。

なお、以下に掲げる事項や国の財政状況及び本学の方針等による予算配分の状況により変更が生じる場合がある。

- ・ 災害復旧事業
- ・ 緊急に対応が必要な事業
- ・ 国の施設整備方針状況を踏まえた事業
- ・ その他必要と認められた事業

◎施設整備の優先順位

予算において厳しい財政状況を踏まえ、以下の観点から総合的に事業効果が高く、効率性に優れていると見込まれる事業を選定する。

- ・ 概ね経年20年以上の建物にて、重要度及び危険・老朽度“A-I”の判定事業。
- ・ 安全面、環境面における行政指導及び法的規制に抵触するもの。
- ・ 本事業の実施により維持管理費等の削減が見込まれるもの。

■重要度

A > B > C > D

■危険・老朽度

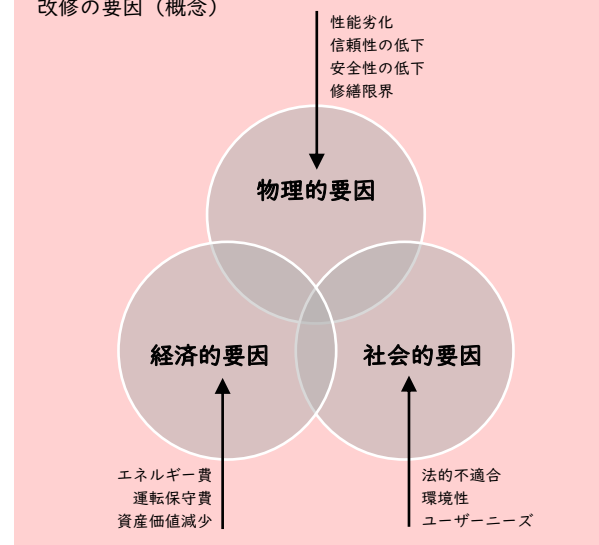
I > 2 > 3 > 4

愛媛大学施設整備基本方針事項

(令和6年度現在)

施設整備 概算事業要求	営繕事業要求
安全・安心の確保	機能強化(省エネ)
機能強化等への対応	安全対策
カーボンニュートラルに向けた取組	法的規制

改修の要因(概念)



◎各部門計画における整備方針

■ パブリックスペース計画

- ◎パブリックスペースは、キャンパスモールとのつながりや屋内外の連続性に配慮し、大学・学部の特徴や活動を地域社会等からも見えるよう計画し、多様な学生・教職員や地域住民との交流を促す多目的なスペースとして有効活用する。
- ◎学生・教職員の交流広場は、学生生活に潤いを与え交流を生み出すスペース、地域に開かれた広場は、インフォメーション機能を備え、大学の魅力を発信するスペースとして位置付ける。

■ 緑化計画

- ◎各キャンパスにおける植樹・植栽の計画においては、四季折々を感じる地域環境との調和を考慮する。

■ 交通動線計画

- ◎歩行者の安全確保のため、歩道を明確に整備し車両との交錯を解消し、快適で魅力的な歩行空間を確保する。交通動線が交錯し危険性の高い箇所については、エリア別計画を検討する。

■ インフララクチャー計画

- ◎法定耐用年数2倍を超えないものについても、更新を図る。
- ◎災害時に重要な施設の業務継続活動が行えるよう、幹線の二重化等を検討する。

■ ユニバーサルデザイン計画

- ◎建物の整備にあたっては、バリアフリー関係法令等に従い、ニーズに合わせて必要な機能を整備する。
- ◎ダイバーシティ（多様性）の視点に配慮し、特にトイレ・更衣室等については多目的に利用できるよう計画する。

■ バリアフリー整備計画

- ◎上記、ユニバーサルデザインやダイバーシティを考慮し、施設バリアフリー整備計画の方針に沿って、多目的トイレやスロープ、自動扉、エレベーター等の整備を推進する。

■ 安全・防犯面計画

- ◎安全・防犯面から、個人情報や知財・研究に係る情報等における建物・部屋毎のセキュリティレベルを設定し、全学的に統一した入退室管理の導入などの保護策を検討する。また犯罪・不正行為の抑止力として防犯カメラや外灯設備を適切に配置する。

■ トイレ整備計画

- ◎多数の学生等が日常的に利用する建物について、感染症予防の観点からトイレの洋式化、乾式化を行い、衛生環境の改善を図り、学生サービスの向上を目指す。

戦略的な施設マネジメントの推進

施設マネジメントとは

大学の「施設マネジメント」の目的は、キャンパス全体について総合的かつ長期的視点から、教育研究活動に対応した適切な施設を確保・活用することであり、その具体的内容は企画・計画、整備、管理の全般にわたる業務である。

【「知の拠点」を目指した大学の施設マネジメント（平成14年5月）より】

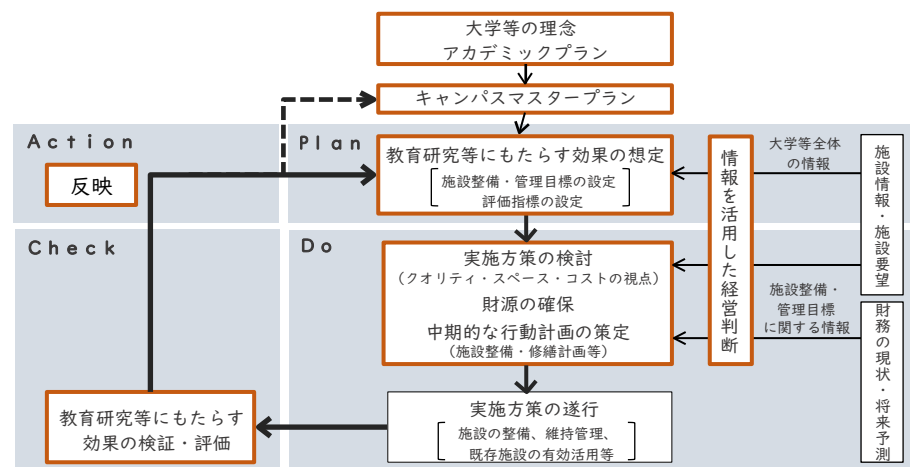
大学経営の一環

施設は、人材・資金・情報と同様に、経営資源の一つ。施設マネジメントとは、国立大学等の理念やアカデミックプランの実現を目的として、施設について戦略的な運営を行い、教育研究や財務の戦略と整合性を図りながら、最小限の投資により最大の効果をあげる取組。

具体的には…

総合的・長期的な視点で、教育研究活動に対応した適切な施設を確保・活用するための新增改築・改修事業、修繕・保守点検等の維持管理、既存施設の有効活用・再配分、省エネルギー対策、これらに必要な財源の確保など

- トップマネジメントによる全学的な体制の構築
- 経営者層の主体的な参画が不可欠



中期的な行動計画を策定する施設マネジメントのPDCAサイクル

【知の拠点—大学の戦略的施設マネジメント（平成15年8月）より】

◎愛媛大学キャンパスマスタープラン2025
の実現に向けて

<施設マネジメントに重要な4つの視点>

「クオリティマネジメント（施設の質の管理）」

- ・施設利用者の要望に配慮しつつ、安全及び教育研究等の諸活動を支援する機能等を確保し、施設の質の向上を図ること。
- ・施設の質を維持・向上するため、教育研究機能や建物の長寿命化に配慮しつつ、適切な優先順位を付して維持管理及び改修を行うことが重要。

「コストマネジメント（施設に係るコスト管理）」

- ・上記のクオリティ及びスペースの確保・活用に要する費用を管理し、大学経営の視点から、費用対効果の向上、資産価値の維持を図る。
- ・維持管理及び改修に当たっては、管理運営コストを考慮し、最少投入費用で最大効果を目指すことが重要。

「スペースマネジメント（施設の運用管理）」

- ・全学的にスペースを管理し、目的・用途に応じた施設の需給度合い、利用度等を踏まえて、適切に配分するとともに、施設を有効に活用すること。
- ・必要とするスペースを適切に配分するためには、教職員や学生のスペース占有意識を見直し、限りある資源の配分に係る調整と意志決定をトップマネジメントとして行う必要がある。

「エネルギーマネジメント（施設のエネルギー管理）」

- ・キャンパスのゼロカーボン化を目指し、温室効果ガスの排出抑制のための実施計画において掲げる環境目標の実現のため、省エネルギー改修など施設のZEB化を加速させる。
- ・実施した取組みについて、環境マネジメントにより点検・評価を行い、温室効果ガス削減やキャンパスのゼロカーボン化の持続的成長を図る。

「クオリティマネジメント（施設の質の管理）」

- ・施設利用者の要望に配慮しつつ、安全及び教育研究等の諸活動を支援する機能等を確保し、施設の質の向上を図ること。
- ・施設の質を維持・向上するため、教育研究機能や建物の長寿命化に配慮しつつ、適切な優先順位を付して維持管理及び改修を行うことが重要。

1. 施設の現状把握

- ・施設における材料の性質、性能、経年等から生ずる物理的・機能的な劣化状況や施設の利用状況を的確に把握。

2. 修繕計画の策定

- ・施設の現状把握を基に、実施すべき事業料と必要な工事費を把握。
- ・事業の優先順位、財源確保の方策など。

3. 情報の活用・記録

- ・良好な維持管理を行うため、修繕の履歴や光熱水量等の使用状況を記録するとともに、計画や設計に活用する。

4. 利用者への普及啓発

- ・施設を適切に維持するために、学生及び教職員に対し、施設に関する情報や正しい利用方法等を周知。

■目標の設定

- 1) 教育・学習施設としての機能の確保
- 2) 研究施設としての機能の確保
- 3) 学生・教職員の生活機能の向上
- 4) 安全性の確保
- 5) 環境への配慮

■実施方策

- 1) ICT環境整備
- 2) ダイバーシティやユニバーサルデザインを考慮したキャンパスのアメニティ向上
- 3) 災害時における防災機能強化
- 4) 安全性の向上による防犯面

「コストマネジメント（施設に係るコスト管理）」

- ・クオリティ及びスペースの確保・活用に要する費用を管理し、大学経営の視点から、費用対効果の向上、資産価値の維持を図る。
- ・維持管理及び改修に当たっては、管理運営コストを考慮し、最少投入費用で最大効果を目指すことが重要。

- ◎ インフラ長寿命化計画（個別施設計画）に基づき、施設整備費概算要求や計画的な整備を行う。
- ◎ 寄附金や他省庁の補助金などの多様な財源の活用、及びPPP/PFIなどの多様な整備手法による施設整備を推進する。
- ◎ スペースチャージ料及び共同利用スペース施設利用料を、共同利用スペースの維持管理費に充てるほか、インフラ長寿命化計画の施設整備に対応した経費に充てる。
- ◎ エネルギー効率の高い快適な教育研究環境を目指す。
- ◎ 自然エネルギーの導入拡大に向け整備の拡充を推進する。
- ◎ 再生可能エネルギーや、排熱など捨てられるエネルギーの有効活用を推進する。
- ◎ カーボンニュートラル・キャンパスを目指すため、さまざまな環境に関するデータをデジタル化し常時収集できるように、情報インフラの整備を推進し、省エネ化を促進する。
- ◎ CO2削減の取り組みを推進するため、省エネルギー対策と同様に削減目標を掲げ、計画的に削減を行う。
- ◎ 将来的なスマートキャンパスの実現に向け、ICT環境を活用し、全学的なエネルギーマネジメントの推進に取り組む。

■増収における施策案

- ・ ネーミングライツによる公募
- ・ 民間資金等の活用（ESCO事業・PPP/PFI事業の導入）
- ・ 施設、土地等の貸付け
- ・ 資産売却
- ・ スペースチャージ制度の見直し

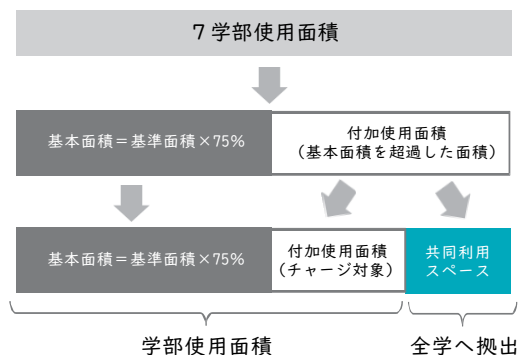
スペースチャージ制度

（背景）

大学の共有財産である施設の有効活用を推進するため、共同利用スペースの確保や戦略的なスペースの配分を行い、教育研究の活性化を図ることを目的とする。施設マネジメントの重要な評価基準である、スペースの流動性への取組みのため、平成23年度から本格的にスペースチャージ制度を導入。

（概要）

スペースチャージ制度は、基本面積（愛媛大学算出基準面積の75%）を超えた学部使用面積について、全学的見地から活用できる共同利用スペースとして全学へ拠出するか、年間5,000円/㎡のチャージ料を支払うこととするかの制度である。利用料を徴収することが目的ではなく、組織改編・全学センターの設置によって学科等の教員・学生定員は大きく変動していることから、全学において施設の利用方法を見直すことが目的である。全学的見地から機動的にスペースを再配分し、流動性のある戦略的スペースの確保を行うことで、教育研究の活性化や保有施設の総量の最適化・施設維持管理に係るコストの増大の抑制を図る。



スペースチャージ制度（現行）

「スペースマネジメント（施設の運用管理）」

- ・全学的にスペースを管理し、目的・用途に応じた施設の需給度合い、利用度等を踏まえて、適切に配分するとともに、施設を有効に活用すること。
- ・必要とするスペースを適切に配分するためには、教職員や学生のスペース占有意識を見直し、限りある資源の配分に係る調整と意志決定をトップマネジメントとして行う必要がある。



保育所



保育所(広場)



マルチゾーン型教室



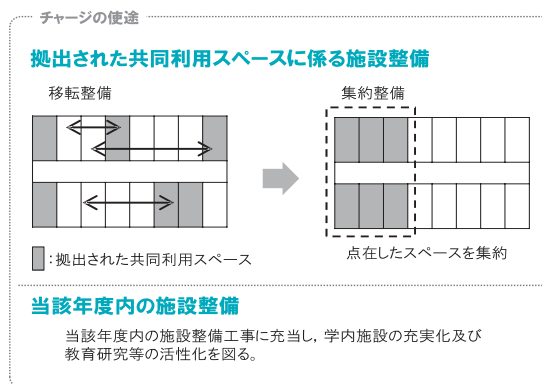
異文化交流スペース

チャージ料におけるこれまでの施設整備事例

（改正）

令和2年度より社会共創学部の設置（平成27年度）による教員・学生定員の変動及び、講義室の全学一元管理化が了承されたことを受け、各学部使用面積の見直し・適正化のため、各学部の使用面積及び基準面積の算出方法を下記3つについて見直しすることとした。

- ①講義室を一元管理化
→各学部の使用面積及び基準面積より“**講義室**”を除外
- ②各学部のインフラ面積（廊下等の共用部）のバラツキの適正化
→各学部の使用面積及び基準面積より“**インフラ面積**”を除外
- ③上記①②による、各学部の基本面積算出の適正化
→（基準面積×80%）から（**基準面積×75%**）へ変更



チャージの取扱い

共同利用スペース

(学長裁量スペース)

(趣旨)

施設の有効活用に関する基本方針に基づき、優れた研究拠点の形成、従来の学部専門の枠を超えたプロジェクト及び研究組織の構築又は学外との共同研究の促進等、大学院及び学部における多様な学習需要に即した教育機能の強化等に円滑に対応するなど、産官学連携プロジェクトや全学的研究プロジェクト等で利用する場合、申請手続きにて共同利用スペースの使用を定める。

(概要)

- 共同利用スペース → 城北キャンパス
：27室 1,135㎡ (令和7年5月現在)
- 利用期間 → 3年(延長2年)
- 施設利用料 → 年間 5,000円/㎡

共同利用スペース(面積㎡)の変遷															
H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
275	341	1,653	1,641	1,641	1,781	1,781	1,781	1,963	1,808	1,215	1,173	1,173	1,259	1,135	1,135

(効果)

1,000㎡以上確保 → スペースの流動性

これまで各部局より拠出された共同利用スペースにおいて、保育所やマルチゾーン型教室等にて整備を行ってきたが、一方で点在した小規模スペースも多数あり、その面積規模に応じて使用目的が制限され、有効的な施設利用とは言い難い状況である。そのような状況を踏まえ、アクティブラーニングスペースやラーニングcommonsなど学習スペースの需要を見据え、大規模改修等のタイミングにおいて、各部局との調整のもと、共同利用スペースの確保及び集約化を積極的に図り、全学的見地から学生主体の共用スペース等の多様に活用できる「共同利用スペース」を創出、より一層の有効的な施設利用の促進を図る。

今後の方策

(全学共同利用の推進における方策)

◎共同利用スペースの確保

◎異分野交流スペースの確保

◎若手研究者スペースの確保

◎固定資産貸付におけるスペースの民間開放

◎講義スペースの適正化

大学の共有財産である施設は、スペースの有効活用を推進するため、平成27年度承認「講義室全学共用・一元管理化」における講義スペースについて、昨今の稼働状況や学生定員に即した適正な規模(室数・大きさ)を見直し、新たな教育組織体制に必要なスペースの創出を目的とし、講義スペース全体を再構築する。

施設の有効活用は大学の重要な経営資源として、

スペース配分は「学長の武器」である。

全学的な施設マネジメントによる柔軟なスペース配分を行う。

【国立大学法人等施設担当職員研修 施設マネジメントの推進資料より】

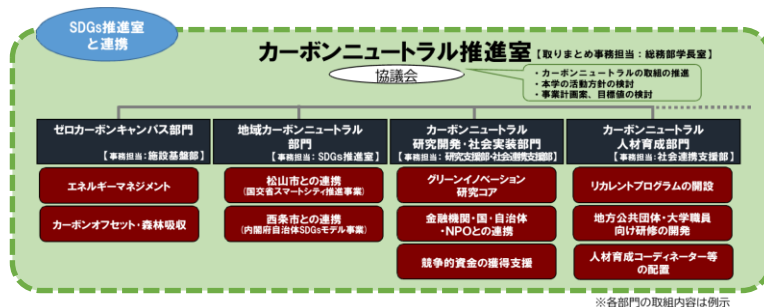
「エネルギーマネジメント（施設のエネルギー管理）」

- ・キャンパスのゼロカーボン化を目指し、温室効果ガスの排出抑制のための実施計画において掲げる環境目標の実現のため、省エネルギー改修など施設のZEB化を加速させる。
- ・実施した取組みについて、環境マネジメントにより点検・評価を行い、温室効果ガス削減やキャンパスのゼロカーボン化の持続的成長を図る。

◎カーボンニュートラルの実現に向けて

2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けて、徹底した省エネルギー対策等を図ったZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）整備が求められている。

本学では、カーボンニュートラル達成に向けて俯瞰的に企画・立案・戦略を提言できる全学組織「カーボンニュートラル推進室」を2023年4月に設置。地域のステークホルダーと協働して、キャンパスのゼロカーボン化、地域のゼロカーボン化を戦略的に推し進めることにより、第4期中期目標期間末には、持続可能でレジリエントな地域社会の実現を目指すとともに、2030年の温室効果ガス46%削減、及び2050年のカーボンニュートラル達成に向けた企画・立案、実行支援をミッションとする。



◎施設整備のZEB化

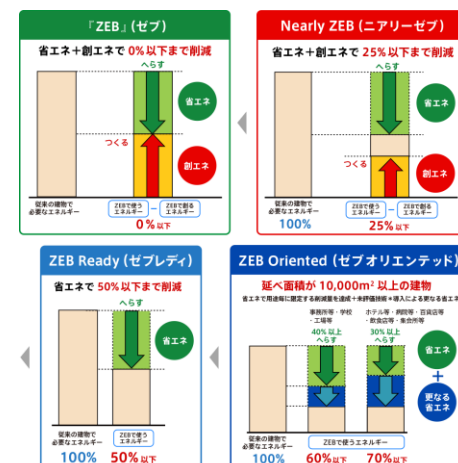
「2030年までに新築建築物の平均で『ZEB』が実現していることを目指し、公共施設等は率先してZEBを実現していることを目指す。」ことが地域脱炭素ロードマップ（令和3年6月9日 国・地方脱炭素実現会議）にて示されている。

本学の施設整備において、施設用途・特性に応じて最適な整備手法によるZEB化を推進する。

実施計画

- 屋上：断熱性能の向上
- 外壁：断熱性能の向上
- 建具：ペアガラス（Low-E）導入
- 照明：LED照明の採用
- 空調：高効率空調、全熱交換器等の導入
- 創エ：太陽光発電設備、新技術等の導入検討

4段階ZEBシリーズ



「環境省ホームページより引用」

第4期中期計画

カーボンニュートラル時代に向けた施設及び設備の高効率化・省エネルギー化に取り組み、教育・研究活動による環境への負荷を抑制し、持続可能なキャンパスの構築を推進する。

：評価指標

- 1) 城北・持田・樺味団地：省エネルギー対策工事ににより削減する温室効果ガス排出量、第4期中期目標期間末までに温室効果ガス排出量を第3期中期目標期間の年平均値比7%以上削減。
- 2) 重信団地（病院を含む）：附属病院再開発整備計画の検討を開始する中で、老朽設備更新を主とするエネルギー使用の合理化等に向けたロードマップの作成と、運用改善の徹底により抑制する温室効果ガス排出量第4期中期目標期間末までに温室効果ガス排出量を第3期中期目標期間の年平均値以下に抑制。

愛媛大学キャンパス概要

愛媛県の概要

瀬戸内海の島々から、伊予灘・佐田岬半島、西の宇和島・豊後水道まで東西に長く伸びている。新居浜・今治市などの東予、松山市周辺の中予、宇和島・八幡浜市などの南予に大きく分けられる。西日本の最高峰・石鎚山や松山市の道後温泉、リアス式海岸の美しい宇和海、そして海を臨むミカンの段々畑が思い浮かぶ。産業は、東予を中心とした工業が四国1位、宇和島の真珠、八幡浜のマダイなどの水産業、そしてミカンなど柑橘系の果物がことごとく出荷最上位を誇る。愛媛県庁ホームページより



松山城



道後温泉本館



しまなみ海道



愛媛みかん

愛媛大学の概要

愛媛大学は、県内に26団地で構成されている。主要4団地は中予地方（松山市に3団地、隣市の東温市に1団地）に集中し、その他の団地は、各研究テーマに応じた教育研究環境の市町に点在している。

■大学設置年月日：昭和24年5月31日

■学部：7学部（法文・教育・社会共創・工・理・農・医）

■大学院：8研究科

■学生数：約1万人

■所有建物面積：約38万㎡

■所有土地面積：約465万㎡



学章

大学の文字を中央に置き、本学の前身の5校を石鎚山の五葉松にたとえ、伸びゆくとする愛媛大学（EHIME）と合わせて、外側に意匠したものです。



ブランドマーク

このブランドマークは、「地域にあって輝く大学」を目指す愛媛大学が「愛媛の知の拠点（ドット・エヒメ）」となることを決意表明しています。また、左の円は太陽を、右のeは躍動する姿を、そしてその全体はすこやかに伸びていく新芽を表しています。愛媛みかんを連想させる黄色は明るさ・快活さの象徴です。また、ロゴタイプは、「愛媛」という画数の多い漢字をシンプルに見せるために、和文・欧文ともにシャープなフォルムで構成しています。

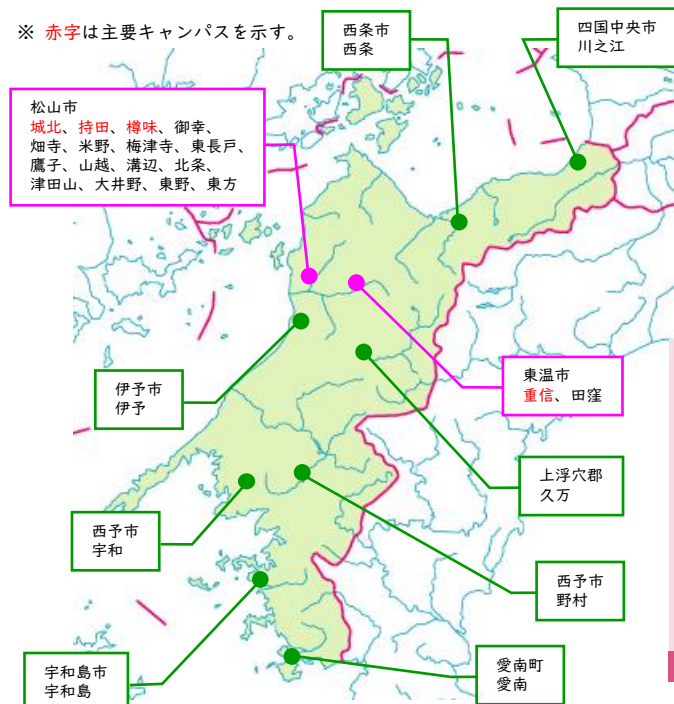


マスコットキャラクター

マスコットキャラクターは、愛媛大学の頭文字「e」と愛媛みかんを組み合わせたものです。遠くを見つめる澄んだまなざしと穏やかな表情は、純粋で素朴な若者の豊かな将来性を示しています。愛称「えみか」も愛媛とみかんのコラボレーションで、微笑みを浮かべたキャラクターにぴったりの名前となっています。

キャンパス位置図

※ 赤字は主要キャンパスを示す。



・医学部・附属病院
・各センター

重信キャンパス



・本部・法文学部・教育学部
・社会共創学部・工学部
・理学部・各センター

城北キャンパス



・附属幼
・附属小
・附属中
・附属特別支援

持田キャンパス



・農学部・附属高校
・各センター

樽味キャンパス

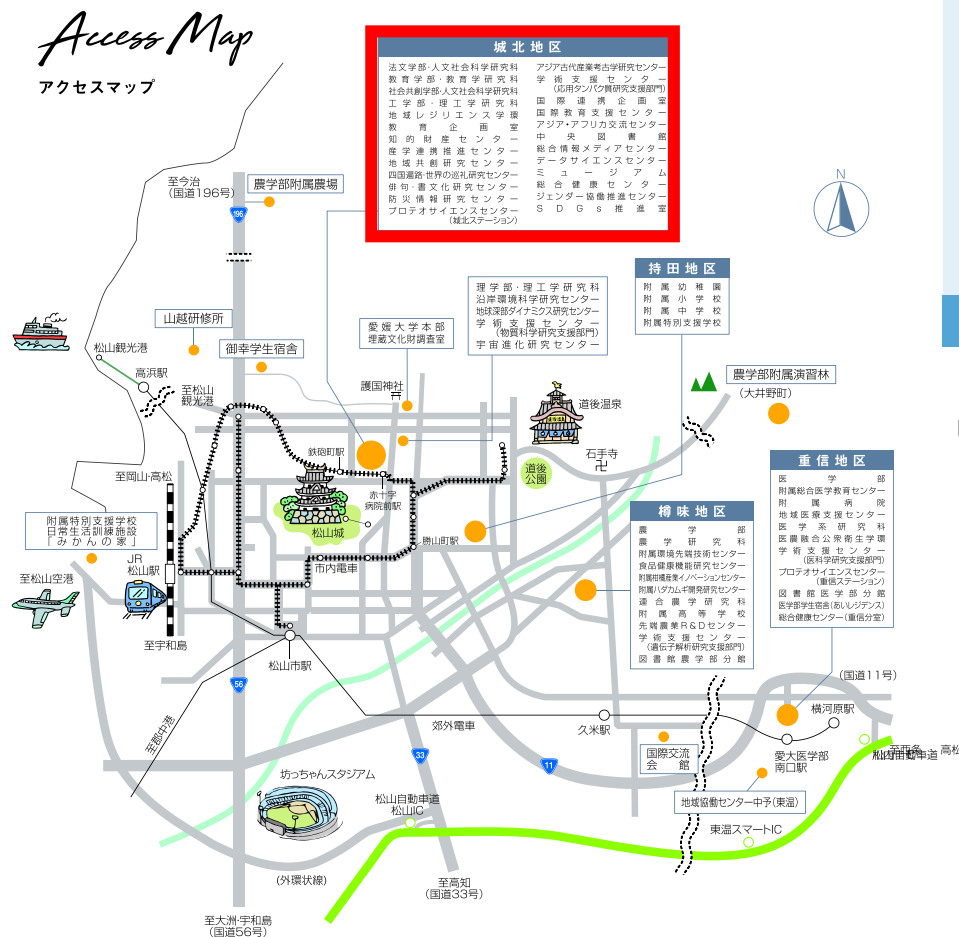
次項、「各キャンパス計画部門」編へ

概要

■城北キャンパス概要

- ・設置年度 : 昭和24年
- ・学部等 : 法文・教育・工・社会共創・理
- ・学生数 : 約7,300人
(男:女=55:45)
- ・敷地面積 : 152,131㎡
- ・建築面積 : 44,829㎡
- ・延べ床面積 : 154,629㎡
- ・都市計画区域 : 都市計画区域内
- ・防火地域 : 準防火地域
- ・用途地域 : 第2種中高層住居
専用地域
第1種住居地域
第2種住居地域
- ・日影規制 : 5-3時間
- ・その他の区域 : 史跡名勝
- ・地震地域係数 : 2種
- ・地盤種別 : 2種
- ・積雪寒冷地域 : その他
- ・海岸からの距離 : 8km以内
- ・給水水源の区分 : 市水・井水
- ・排水・処理方式 : 合流・公共下水道
- ・ガス供給方式 : 都市ガス
- ・契約電力 : 4,800KW
- ・地震防災対策強化区域
- ・大気汚染防止区域
- ・騒音規制区域
- ・振動規制区域
- ・水質汚濁防止区域

令和7年5月1日現在



城北キャンパス

■ 洪水浸水想定区域

- ・松山市道後樋又
- ・松山市文京町

◎ 国土交通省：ハザードマップポータルサイト
(<https://disaportal.gsi.go.jp/>)

施設の現状と課題

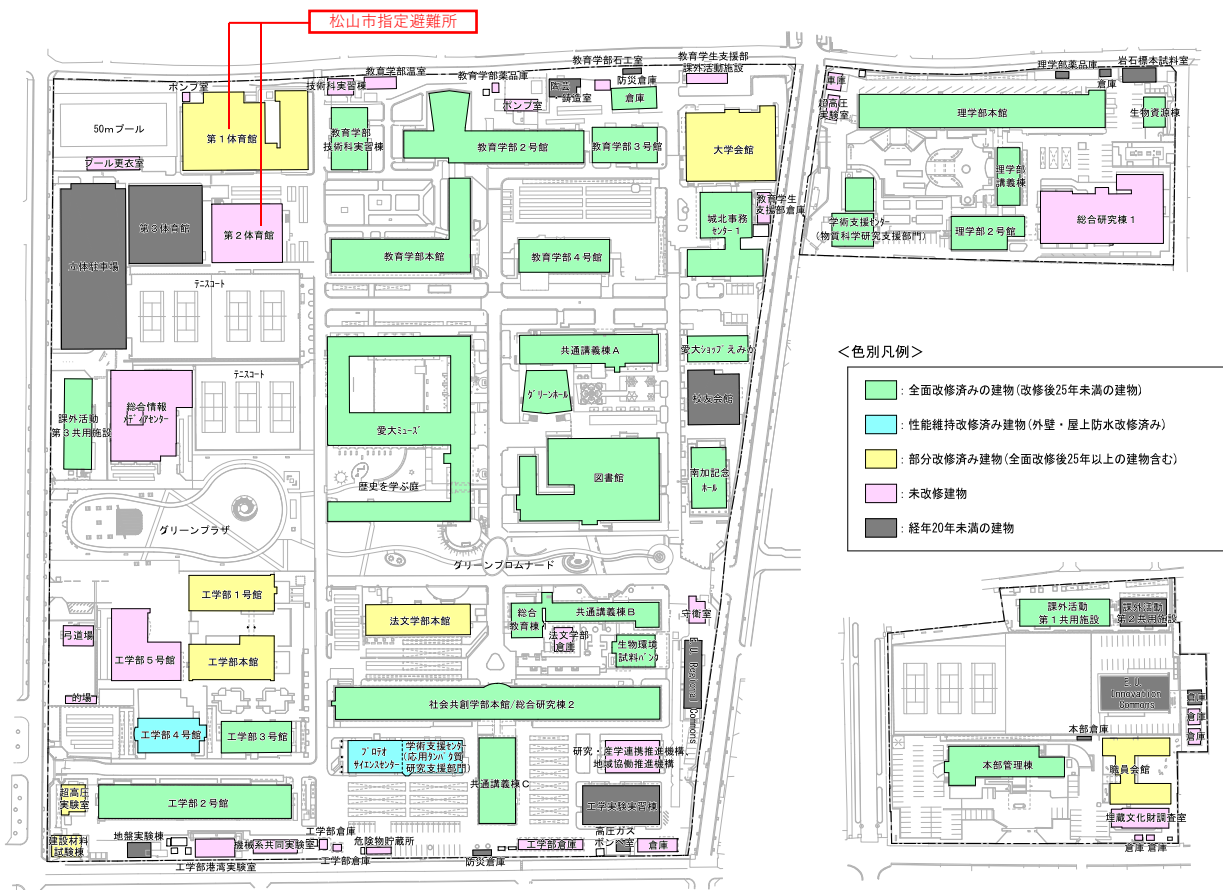
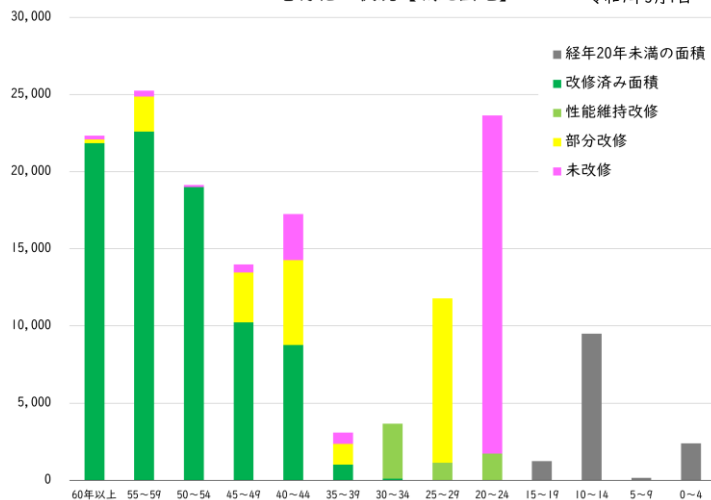
◎施設の現状と課題

城北キャンパスは、約15万㎡の建物を保有しており、その内、経年25年以上の老朽化により改修を必要とする面積は約5万㎡であり、全体の32%を占めている。

- 経年50年以上の建物については、一部の小規模建物を除き、概ね改修済みである。
- 経年35年以上の改修を必要とする建物については、機能強化を目指した大規模改修の計画を図る。
- 経年20年以上の建物については、長寿命化の観点により躯体の老朽化対策のため外装材改修を最優先とし、カーボンニュートラル実現に向けた設備更新など性能維持改修を行う。
- 地域の避難所としての防災機能の強化が必要である。ハザードマップ等を活用した災害対策(浸水・冠水・熱中症対策)を行う。

老朽化の状況【城北団地】

令和7年5月1日



内訳	面積(㎡)	割合(%)
全保有面積(職員宿舎を除く)	153,436	100.0%
経年20年以上の保有面積	140,140	91.3%
改修済み面積	83,527	54.4%
性能維持改修	6,433	4.2%
部分改修	23,233	15.1%
未改修	26,947	17.6%
経年20年未満の保有面積	13,296	8.7%

← 要改修面積

施設の建築年

◎施設の建築年

城北キャンパスは大学設置（昭和24年）から、現在までの建物数は **87棟**である。

これまでの建物の寿命は、減価償却資産の観点による耐用年数50年程度であったが、長寿命化の観点により80年～100年を目指す方向性で適切な維持管理を実施することとしている。また、施設トリアージ観点から“長期的に必要となる施設”“将来的に不要となる施設”判断を考慮しなければならない。



経過年数：



1952年（経年73年）
愛大ミュージック



1978年（経年47年）
大学会館



2022年（経年3年）
E.U. Regional Commons

施設整備計画

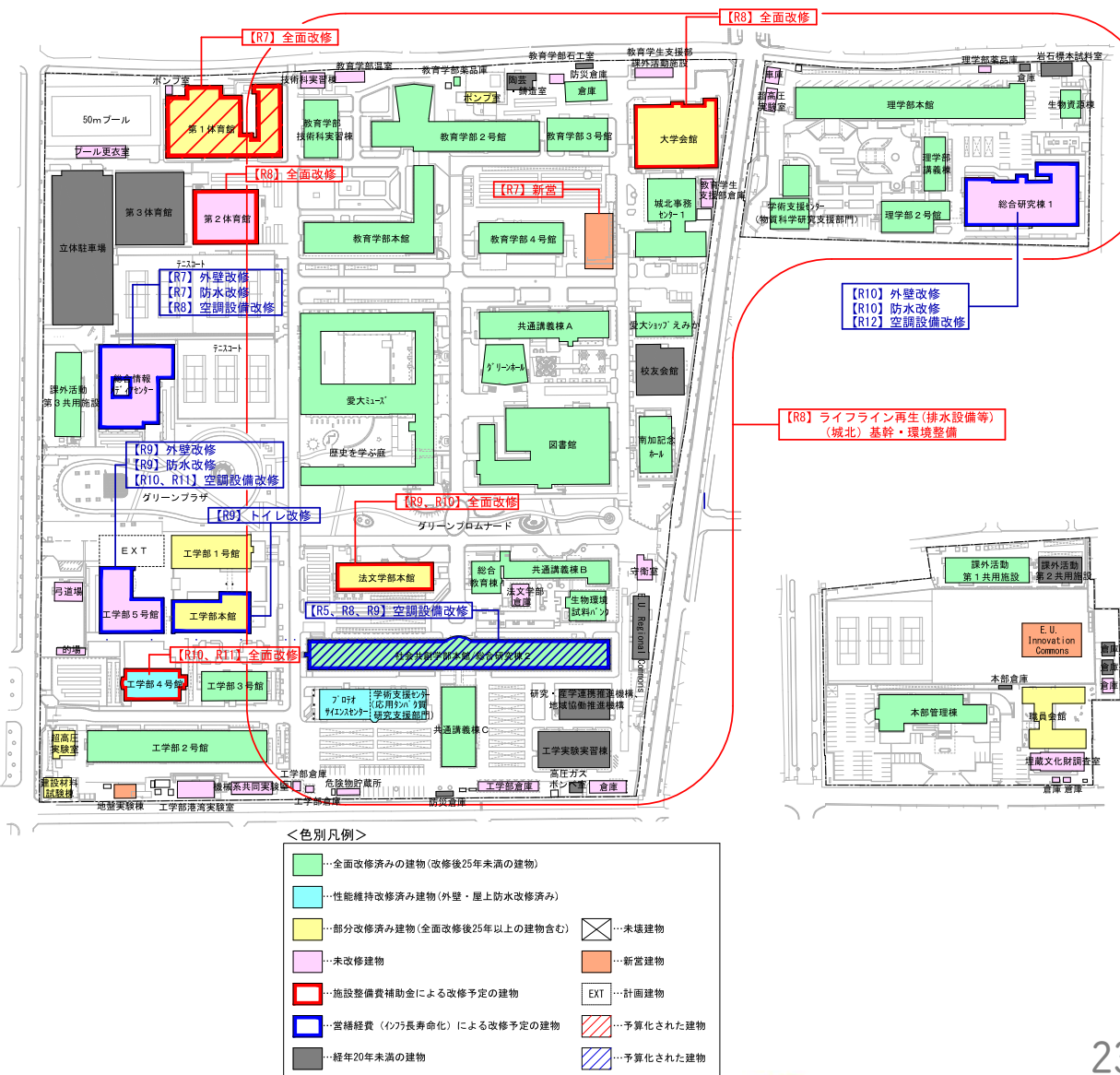
◎城北キャンパス施設整備計画

インフラ長寿命化計画に基づいた整備計画とする。また、防災機能強化を図るため、松山市指定避難所である体育館の改修及び空調設置を計画する。

年次計画表

令和7年5月1日現在

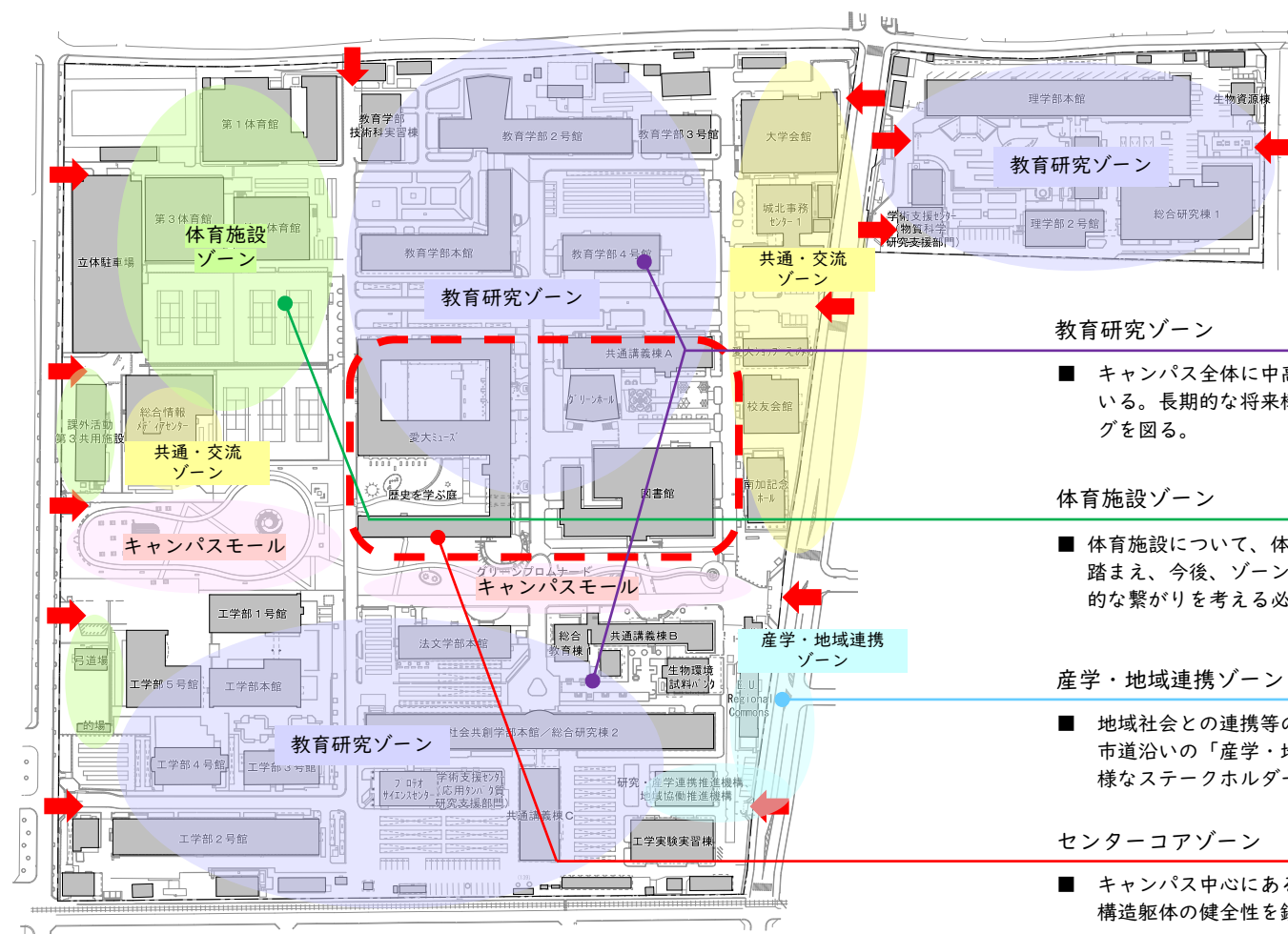
NO.	建物名	項目	キャンパスマスタープラン2025					
			第4期中期目標・中期期間			第5期中期目標・中期期間		
			2025	2026	2027	2028	2029	2030
			R7	R8	R9	R10	R11	R12
1	大学・高専機能強化支援事業	新営事業	●					
2	第1体育館	大規模改修	●					
3	第2体育館	大規模改修		●				
4	ライフライン再生	大規模改修		●				
5	大学会館	大規模改修		●				
6	法文学部本館	大規模改修			●	●		
7	工学部4号館	大規模改修				●	●	
8	社会共創学部/総合研究棟2	空調改修	●	●	●			
9	総合情報メディアセンター（北棟）	空調改修			●			
10	工学部5号館	空調改修				●	●	
11	総合情報メディアセンター（南棟）	外壁・防水改修	●					
12	総合情報メディアセンター（北棟）	外壁・防水改修		●				
13	工学部5号館	外壁・防水改修			●			
14	総合研究棟Ⅰ	外壁・防水改修				●		
15	工学部本館	トイレ改修			●			
16	総合研究棟Ⅰ	空調改修						●



ゾーニング計画

◎キャンパスゾーニング、現状と課題

城北キャンパスにおいて、5学部と多くの機構・センターで形成されており、各学部・各分野の特色を最大限に活かし、有機的な繋がり「キャンパス全体のイノベーションcommons」を目的とする。



凡例

: 敷地出入口

教育研究ゾーン

- キャンパス全体に中高層・低層の建物が散在し、建て詰まりとなっている。長期的な将来構想では、建物の集約・高層化を念頭にゾーニングを図る。

体育施設ゾーン

- 体育施設について、体育館やプールの老朽化が進む中、現状の運用を踏まえ、今後、ゾーンの中での再編もしくは山越キャンパスとの有機的な繋がりを考える必要がある。

産学・地域連携ゾーン

- 地域社会との連携等の観点から、開かれたキャンパスを実現するため、市道沿いの「産学・地域連携ゾーン」、「共通・交流ゾーン」では、多様なステークホルダーが気軽に利用し、魅力を発信していく。

センターコアゾーン

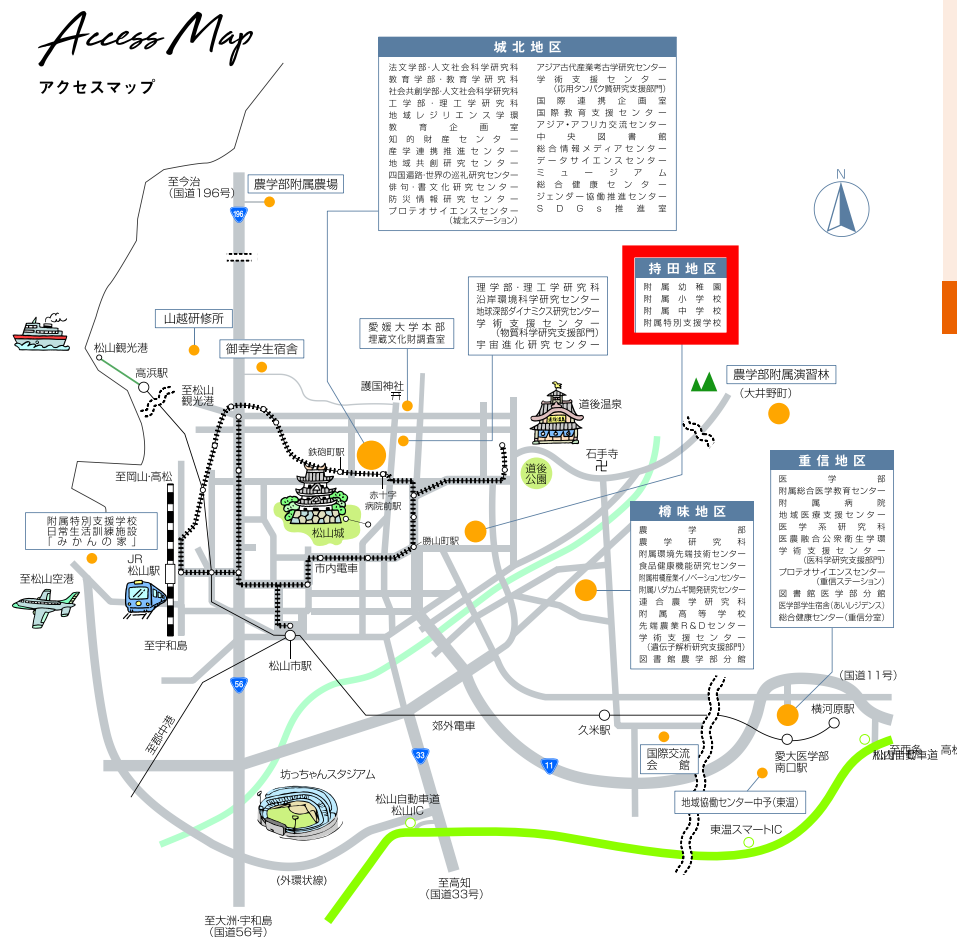
- キャンパス中心にある愛大ミュージアム等は、施設の建築年の観点から構造躯体の健全性を鑑みて、将来的に改築の検討を図る。

概要

■持田キャンパス概要

- ・設置年度 : 昭和24年
- ・学部等 : 附属小学校・附属中学校・附属特別支援学校・附属幼稚園
- ・学生数 : 約1,160人 (男:女=55:45)
- ・敷地面積 : 65,933㎡
- ・建築面積 : 10,946㎡
- ・延べ床面積 : 17,513㎡
- ・都市計画区域 :
- ・防火地域 :
- ・用途地域 : 第1種住居地域
第2種住居地域
- ・日影規制 : 5-3時間
- ・その他の区域 : 史跡名勝
景観計画区域
準景観地区
- ・地震地域係数 : 2種
- ・地盤種別 : 2種
- ・積雪寒冷地域 : その他
- ・海岸からの距離 : 8km以内
- ・給水水源の区分 : 市水・井水
- ・排水・処理方式 : 分流・公共下水道
- ・ガス供給方式 : 都市ガス
- ・契約電力 : 565KW
- ・大気汚染防止区域 :
- ・振動規制区域 :

令和7年5月1日現在



持田キャンパス

■ 洪水浸水想定区域

・松山市持田町

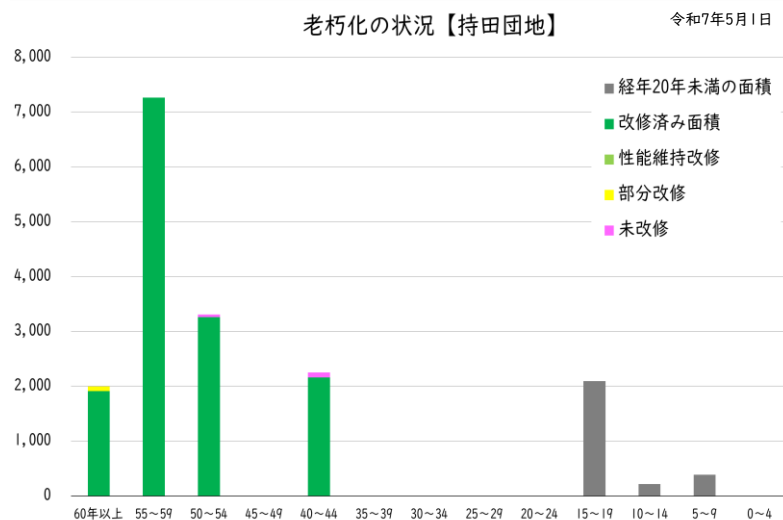
© 国土交通省：ハザードマップポータルサイト
(<https://disaportal.gsi.go.jp/>)

施設の現状と課題

◎施設の現状と課題

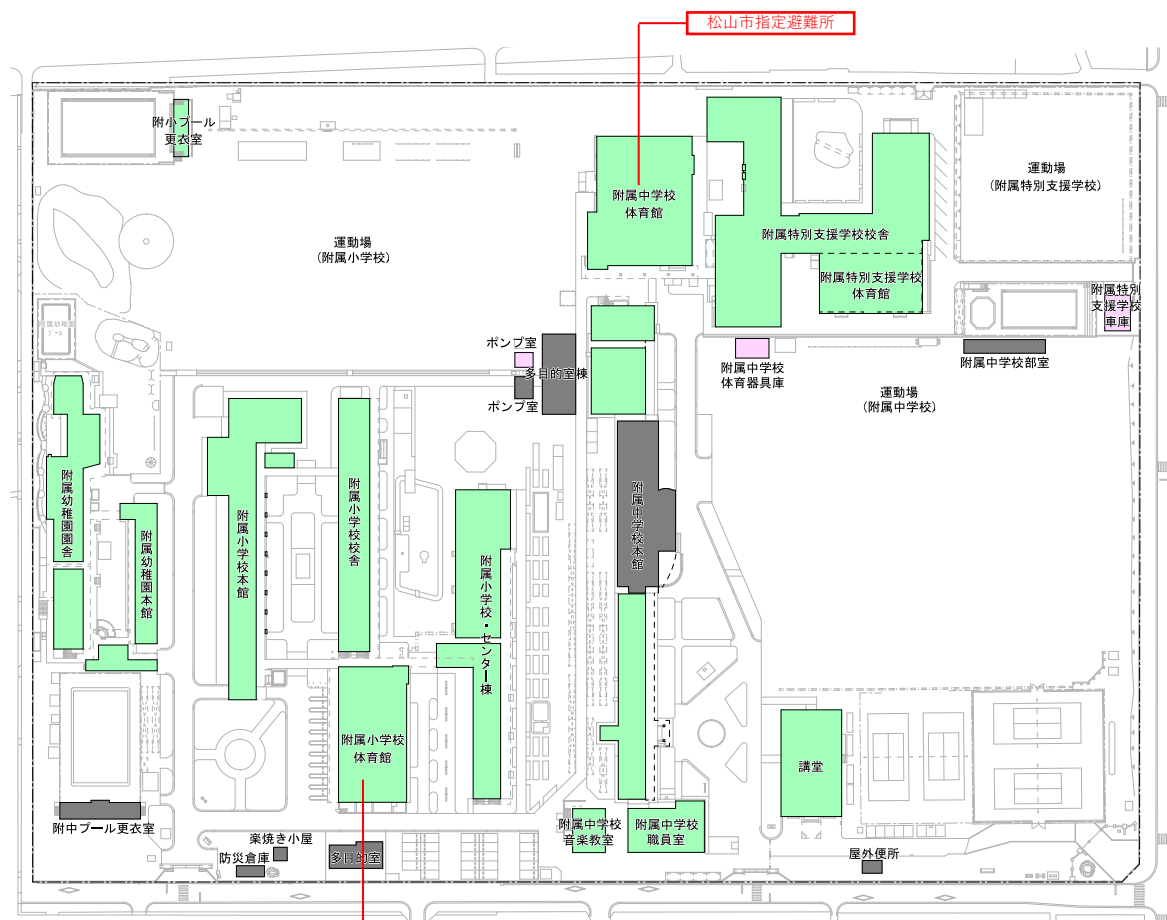
持田キャンパスは、約1.7万㎡の建物を保有しており、一部の小規模建物を除き、概ね改修済みである。

- 地域の避難所としての防災機能の強化が必要である。ハザードマップ等を活用した災害対策(浸水・冠水・熱中症対策)を行う。








内訳	面積(㎡)	割合(%)
全保有面積(職員宿舎を除く)	17,513	100.0%
経年20年以上の保有面積	14,817	84.6%
改修済み面積	14,593	83.3%
性能維持改修	0	0.0%
部分改修	88	0.5%
未改修	136	0.8%
経年20年未満の保有面積	2,696	15.4%

← 要改修面積



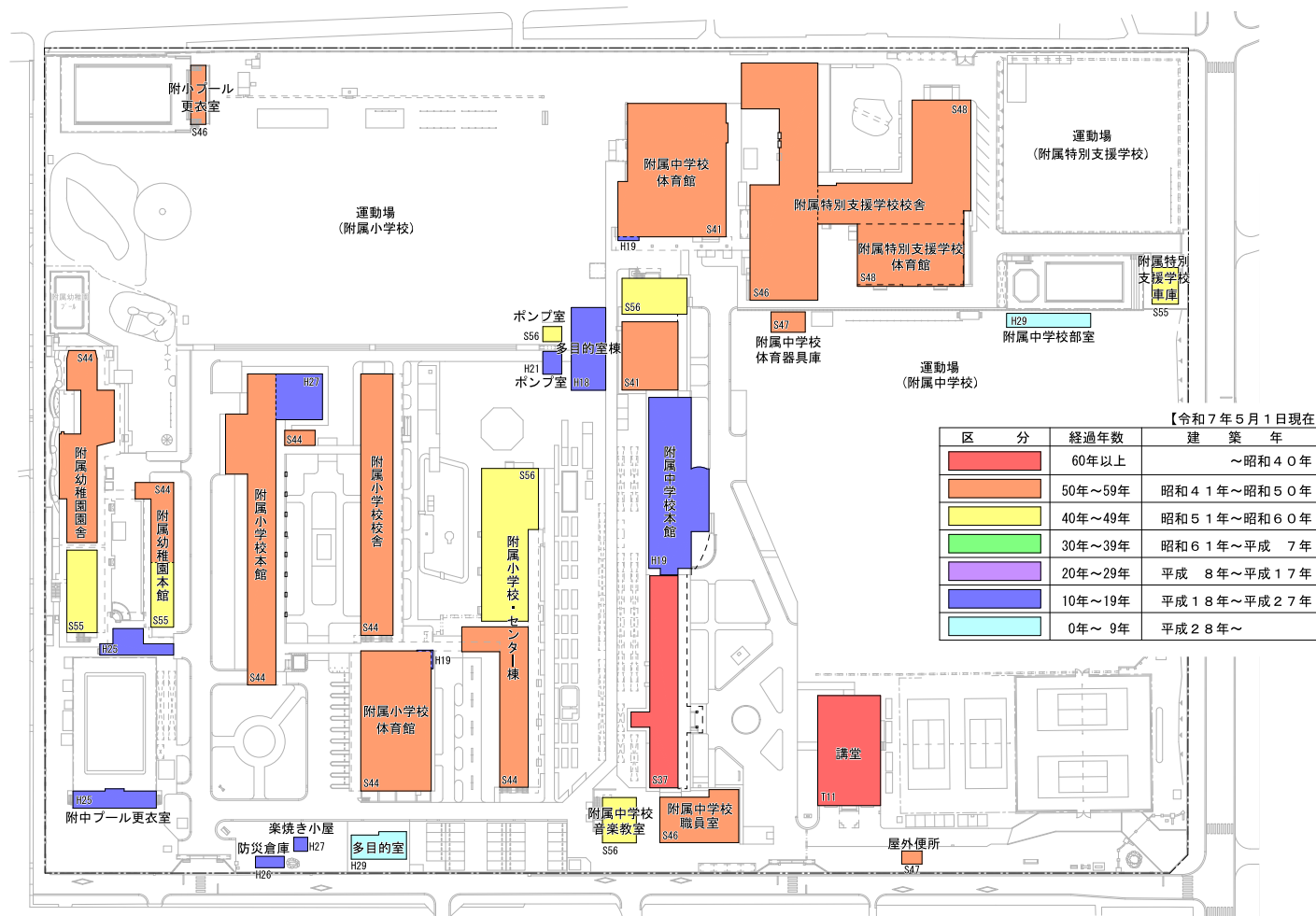
＜色別凡例＞

-  : 全面改修済みの建物(改修後25年未満の建物)
 : 性能維持改修済み建物(外壁・屋上防水改修済み)
 : 部分改修済み建物(全面改修後25年以上の建物含む)
 : 未改修建物
 : 経年20年未満の建物

施設の建築年

◎施設の建築年

持田キャンパスの大学設置（昭和24年）から、現在までの建物数は **25棟**である。
 そのうち、経年50年以上の建物数は **14棟**である。



経過年数：



1922年（経年103年）
講堂【保存建物】



1962年（経年63年）
附属中学校本館



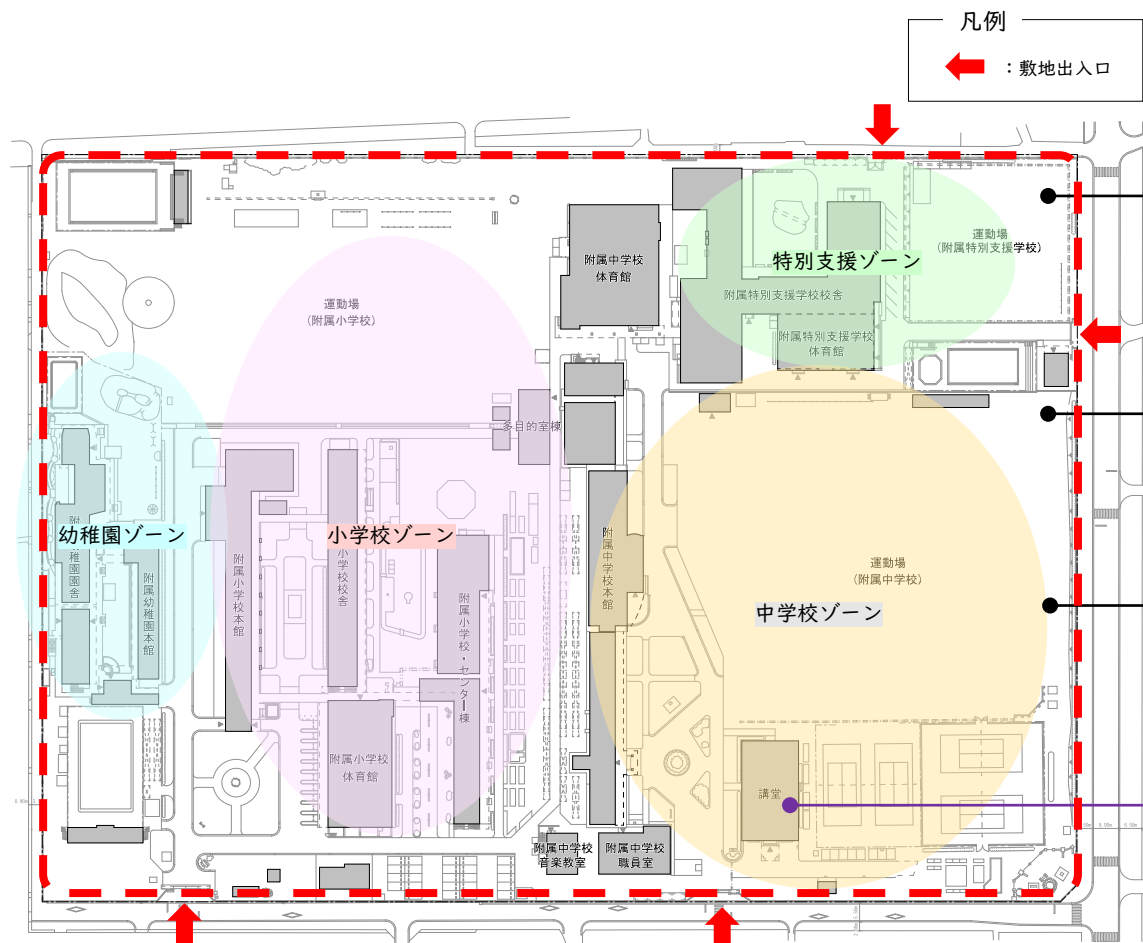
2017年（経年8年）
附属中学校部室

28

ゾーニング計画

◎キャンパスゾーニング、現状と課題

持田キャンパスにおいて、4つの附属学校園（幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校）と科学教育研究センター、インクルーシブ教育センター、才能教育センターで形成されており、地域のモデル的な学校園として先導的な教育研究を実践し、多様な学習形態による子供たちの主体的な活動を支援し、児童・生徒の安全安心な学習環境整備を目的とする。



共通：安全対策

- 学校環境の樹木について、老齢化・大径木化が進行し、倒伏や落枝による重大な事故等の発生リスクが高い樹木については重点的に点検及び対策を行うことが重要。また、景観木や地域のランドマークになっているもの等も存在するため、慎重に判断する。

共通：バリアフリー対策

- 持田キャンパスの在り方として、インクルーシブ教育システムの構築のため学校施設バリアフリー化の強化に向けて、多様な利用者が交流・共用することができる環境整備を図る。

共通：衛生対策

- 学校施設の感染症予防の観点から、多数の生徒が日常的に使用するトイレの洋式及び乾式に改修を行い、菌やウイルスからの感染リスクを軽減し、安全・安心な教育研究環境を確保する。

保存建物

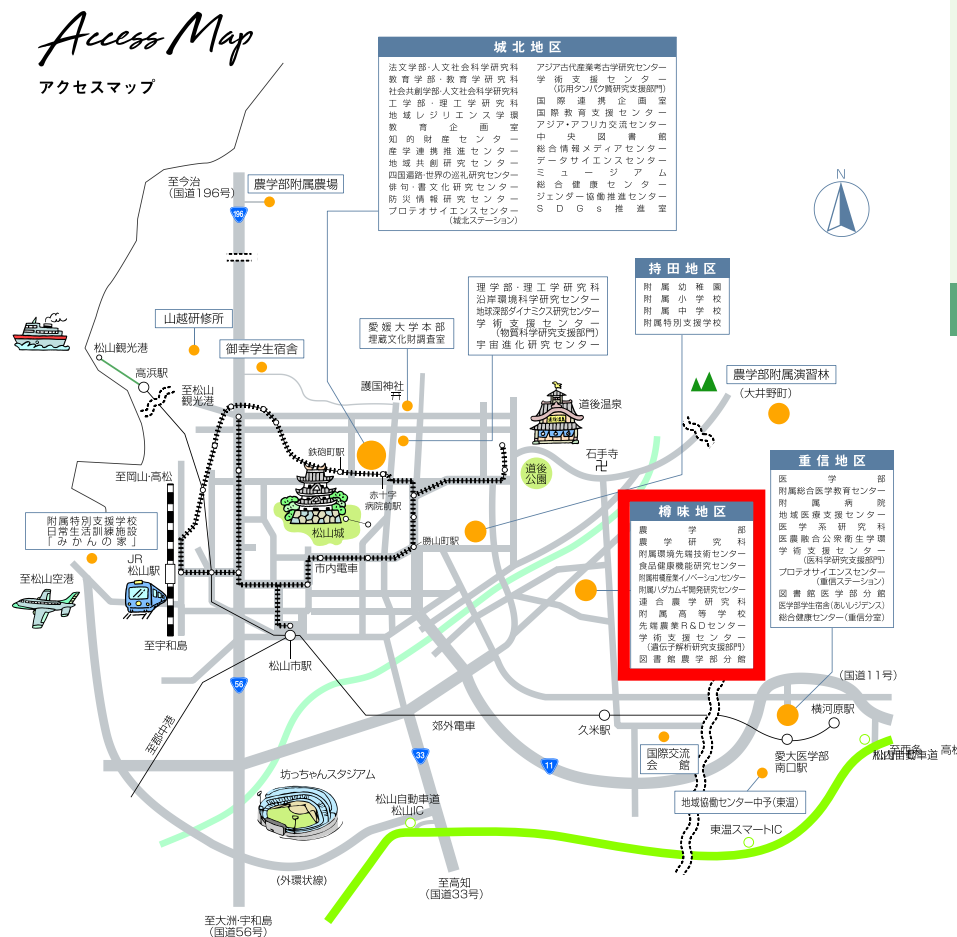
- 旧制松山高等学校講堂「章光堂」については、愛媛大学指定の保存構造物であることの趣旨を尊重し、保存に配慮する。
※木造2階建、建築面積501㎡：平成10年9月 国の有形文化財登録（文化財保護法）

概要

■樽味キャンパス概要

- ・設置年度 : 昭和29年
- ・学部等 : 農・附属高校
- ・学生数 : 約880人
(男:女=55:45)
- ・敷地面積 : 82,090㎡
- ・建築面積 : 17,678㎡
- ・延べ床面積 : 45,779㎡
- ・都市計画区域 : 都市計画区域内
- ・用途地域 : 第1種中高層住居
専用地域
- ・日影規制 : 4-2.5時間
- ・その他の区域 : 史跡名勝
景観計画区域
準景観地区
- ・地震地域係数 : 2種
- ・地盤種別 : 2種
- ・積雪寒冷地域 : その他
- ・海岸からの距離 : 8km超
- ・給水水源の区分 : 市水・井水
- ・排水・処理方式 : 分流・公共下水道
- ・ガス供給方式 : 都市ガス
- ・契約電力 : 1,190KW
- ・大気汚染防止区域
- ・振動規制区域

令和7年5月1日現在



樽味キャンパス

■ 洪水浸水想定区域

・松山市樽味町

© 国土交通省：ハザードマップポータルサイト
(<https://disaportal.gsi.go.jp/>)

施設の現状と課題

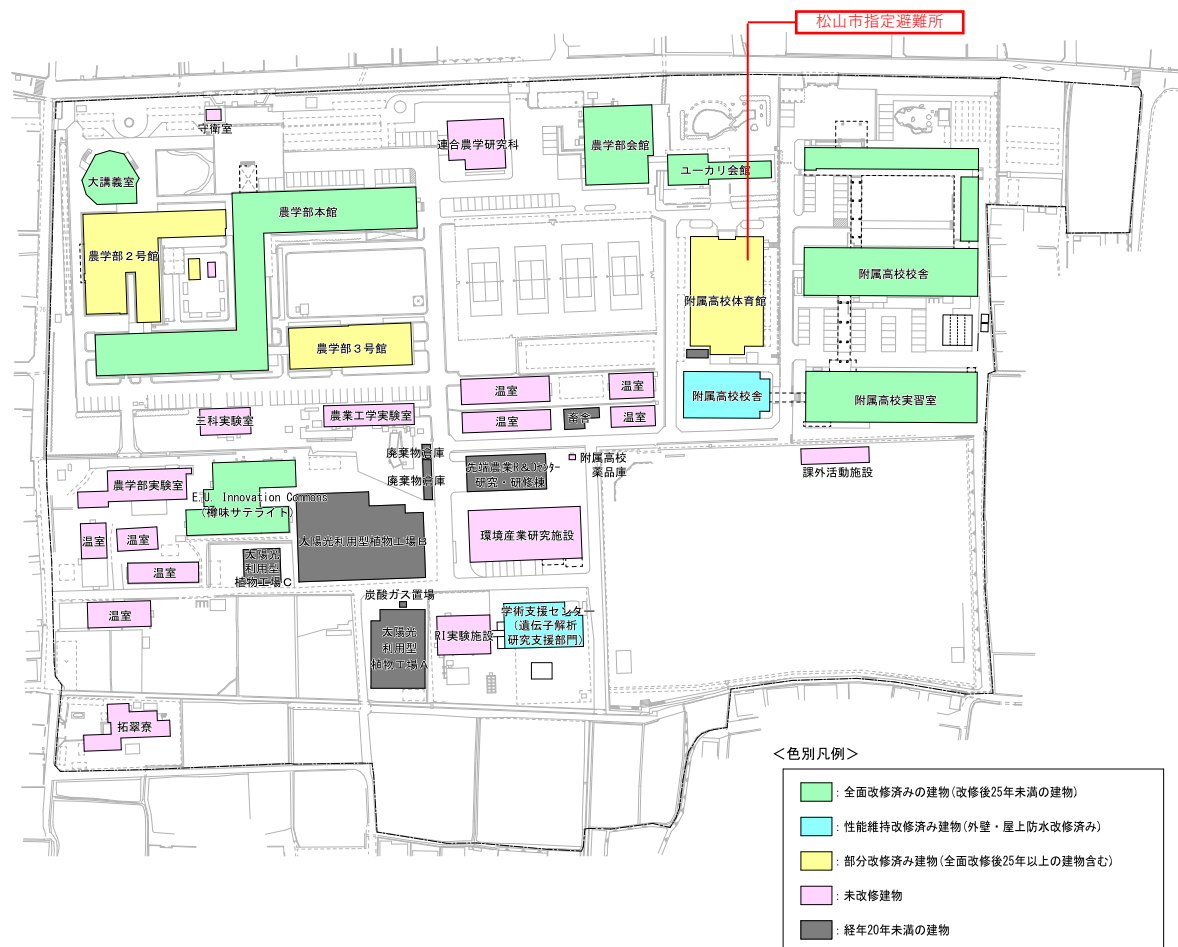
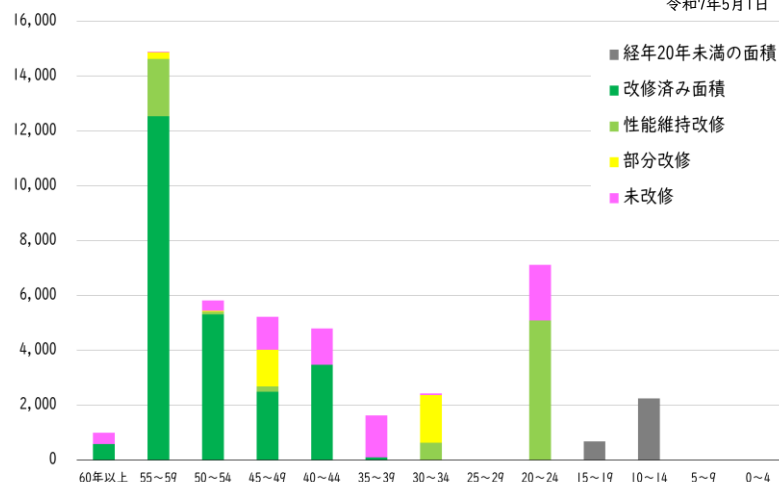
◎施設の現状と課題

樽味キャンパスは、約4.5万㎡の建物を保有しており、その内、経年25年以上の老朽化により改修を必要とする面積は約1.7万㎡であり、全体の30%程度を占めている。

- 正門から北エリア周辺の学生・生徒が日常的に多く利用される大規模建物は、適宜、改修を進めている。南エリアにおける実験実習施設は老朽化が著しい状況である。
- 昭和55年建設（経年45年）学生宿舍“拓翠寮”については、老朽化進行と入居率の悪化に伴い、入寮募集停止中である。令和7年3月、学生全員の退寮により今後の利活用について喫緊の課題である。
- 地域の避難所としての防災機能の強化が必要である。ハザードマップ等を活用した災害対策（浸水・冠水・熱中症対策）を行う。

老朽化の状況【樽味団地】

令和7年5月1日



<色別凡例>

- 全面改修済みの建物（改修後25年未満の建物）
- 性能維持改修済みの建物（外壁・屋上防水改修済み）
- 部分改修済みの建物（全面改修後25年以上の建物含む）
- 未改修建物
- 経年20年未満の建物

内訳	面積(㎡)	割合(%)
全保有面積（職員宿舎を除く）	45,779	100.0%
経年20年以上の保有面積	42,866	93.6%
改修済み面積	24,482	53.5%
性能維持改修	8,095	17.7%
部分改修	3,333	7.3%
未改修	6,956	15.2%
経年20年未満の保有面積	2,913	6.4%

← 要改修面積

施設の建築年

◎施設の建築年

樽味キャンパスは大学設置（昭和29年）から、現在までの建物数は **41棟**である。

これまでの建物の寿命は、減価償却資産の観点による耐用年数50年程度であったが、長寿命化の観点により80年～100年を目指す方向性で適切な維持管理を実施することとしている。

また、施設トリアージ観点から“長期的に必要となる施設”“将来的に不要となる施設”判断を考慮しなければならない。



經過年數：



1959年（経年66年）
農学部三科実験室



1966年（経年59年）
農学部本館



1988年（経年37年）
連合農学研究科

【令和 7 年 5 月 1 日現在】		
区 分	経過年数	建 築 年
	60年以上	～昭和40年
	50年～59年	昭和41年～昭和50年
	40年～49年	昭和51年～昭和60年
	30年～39年	昭和61年～平成 7 年
	20年～29年	平成 8 年～平成 17 年
	10年～19年	平成 18 年～平成 27 年
	0年～ 9 年	平成 28 年～

施設整備計画

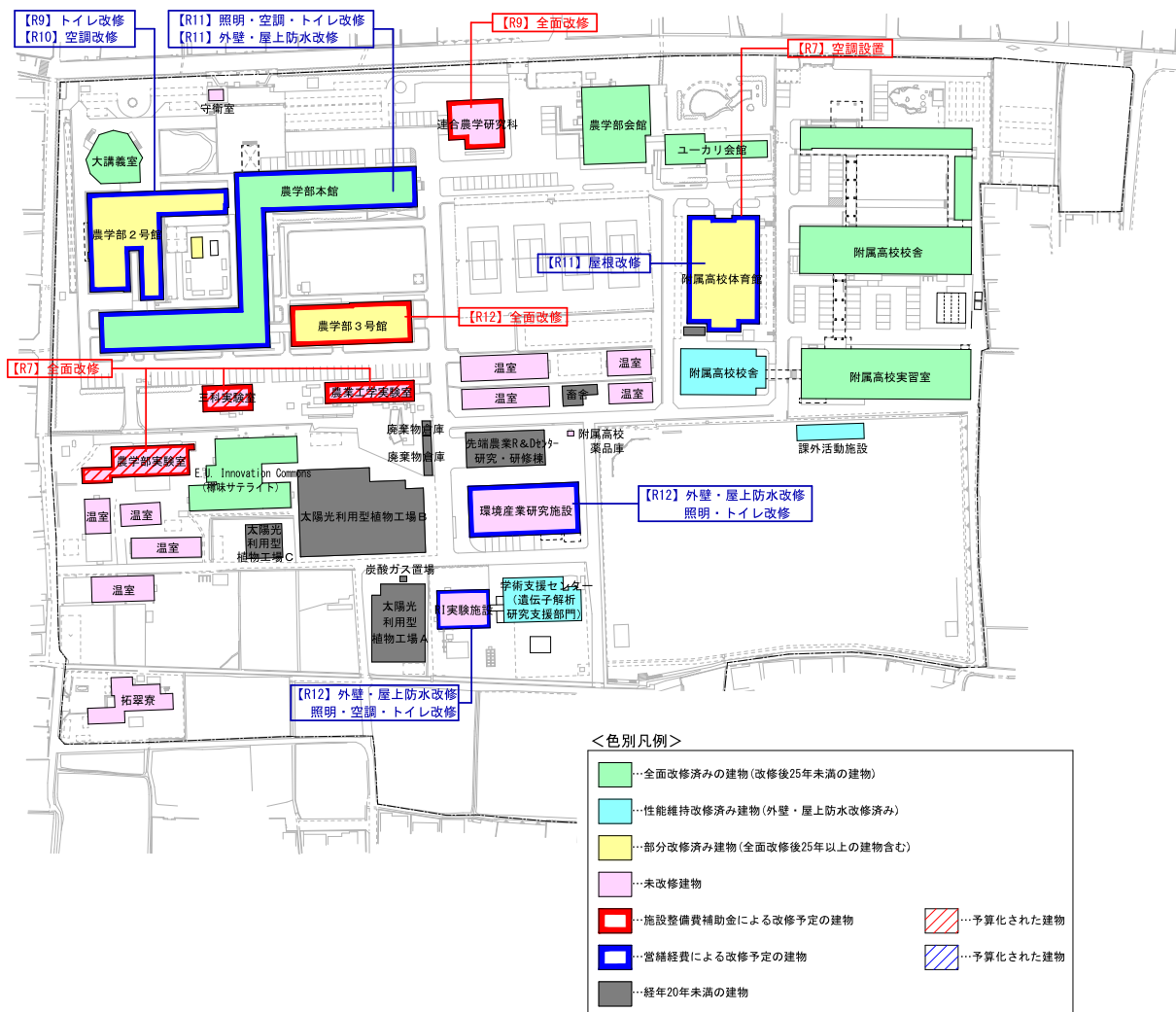
◎樽味キャンパス施設整備計画

インフラ長寿命化計画に基づいた整備計画とする。また、防災機能強化を図るため、松山市指定避難所である体育館への空調設置を計画する。

年次計画表

令和7年5月1日現在

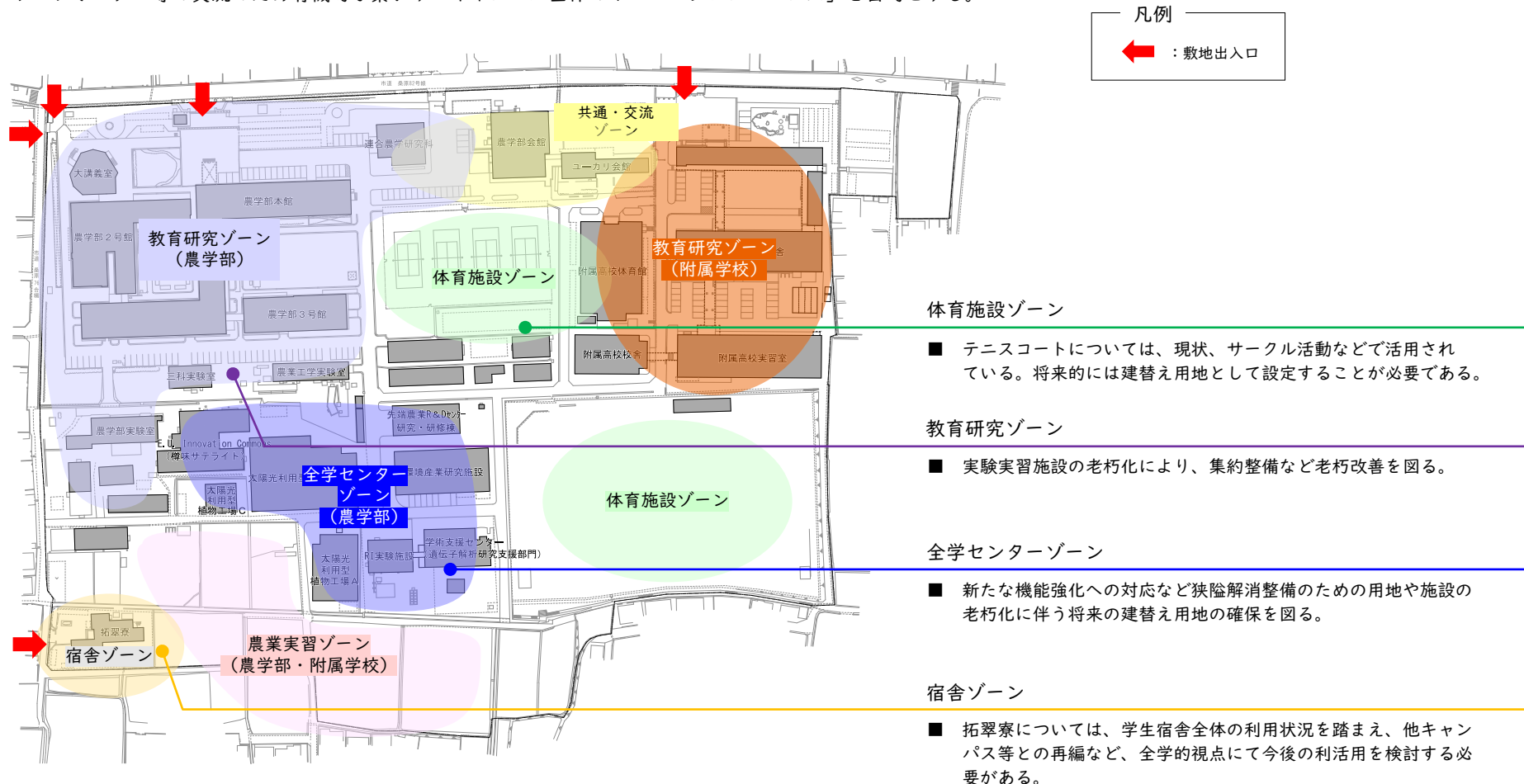
NO.	建物名	項目	キャンパスマスタープラン2025						
			第4期 中期目標・中期期間			第5期 中期目標・中期期間			
			2025	2026	2027	2028	2029	2030	
			R7	R8	R9	R10	R11	R12	
1	三科実験室	大規模改修	●						
2	農学部実験室	大規模改修	●						
3	農業工学実験室	大規模改修	●						
4	附属高校体育館	空調設置	●						
5	連合農学研究科	大規模改修			●				
6	農学部3号館（東側）	大規模改修							●
7	農学部2号館	空調改修				●			
8	農学部本館	空調改修					●		
9	RI実験施設	空調改修						●	
10	農学部本館	外壁・防水改修					●		
11	附属高校体育館	屋根改修					●		
12	環境産業研究施設	外壁・防水改修						●	
13	RI実験施設	外壁・防水改修						●	
14	農学部本館	照明改修					●		
15	環境産業研究施設	照明改修						●	
16	RI実験施設	照明改修						●	
17	農学部2号館	トイレ改修			●				
18	農学部本館	トイレ改修					●		
19	環境産業研究施設	トイレ改修						●	
20	RI実験施設	トイレ改修						●	



ゾーニング計画

◎キャンパスゾーニング、現状と課題

樽味キャンパスにおいて、農学部と附属高等学校及び全学センターで形成されており、学部の特色“自然と共生する持続可能な社会の構築”により、屋外環境など魅力あるキャンパス環境を醸成し、学生や教職員、多様なステークホルダー等の交流のため有機的な繋がり「キャンパス全体のイノベーションコモンズ」を目的とする。



概要

■重信キャンパス概要

- ・設置年度 : 昭和48年
- ・学部等 : 医
- ・学生数 : 約750人
(男:女=55:45)
- ・敷地面積 : 191,168㎡
- ・建築面積 : 44,897㎡
- ・延べ床面積 : 139,202㎡
- ・都市計画区域 : 都市計画区域内
- ・防火地域 : 準防火地域
- ・用途地域 : 第1種住居地域
- ・日影規制 :
- ・その他の区域 : 史跡名勝
景観計画区域
準景観地区
- ・地震地域係数 : 2種
- ・地盤種別 : 2種
- ・積雪寒冷地域 : その他
- ・海岸からの距離 : 8km超
- ・給水水源の区分 : 市水・井水
- ・排水・処理方式 : 分流・公共下水道
- ・ガス供給方式 : ボンベガス
- ・契約電力 : 5,073KW
- ・振動規制区域

令和7年5月1日現在



重信キャンパス

■ 重信地区は、洪水・高潮・土砂災害・津波による被害の危険性が想定されている場所ではない。

・東温市志津川

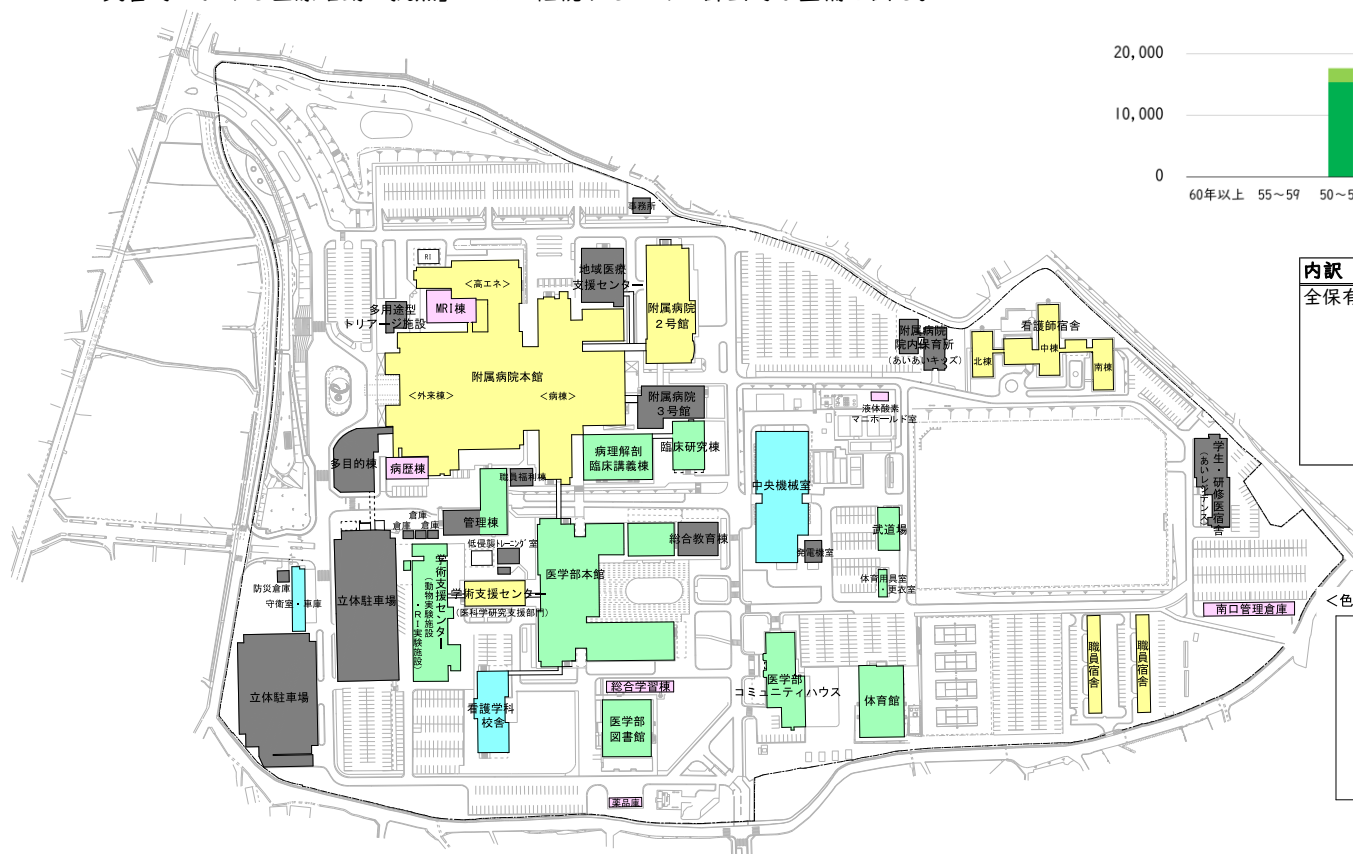
◎ 国土交通省：ハザードマップポータルサイト
(<https://disaportal.gsi.go.jp/>)

施設の現状と課題

◎施設の現状と課題

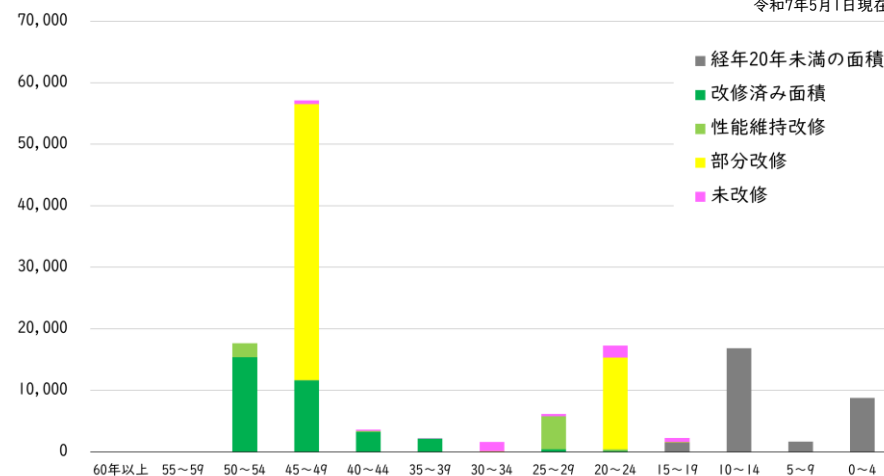
重信キャンパスは、約14万㎡の建物を保有しており、その内、経年25年以上の老朽化により改修を必要とする面積は約6.8万㎡であり、全体の50%程度である。

- 医学部施設は一部の小規模建物を除き概ね改修済であるが、経年45～49年の老朽化施設である附属病院施設（約50,000㎡）については、喫緊の課題である。
- 災害拠点病院としての防災機能の強化が必要である。
「災害時における医療活動の拠点」として継続するための計画的な整備を図る。



老朽化の状況【重信団地】

令和7年5月1日現在



内訳	面積(㎡)	割合(%)
全保有面積（職員宿舎を除く）	135,142	100.0%
経年20年以上の保有面積	105,612	78.1%
改修済み面積	32,956	24.4%
性能維持改修	8,163	6.0%
部分改修	59,903	44.3%
未改修	5,281	3.9%
経年20年未満の保有面積	28,839	21.3%

要改修面積

<色別凡例>

- 全面改修済みの建物（改修後25年未満の建物）
- 性能維持改修済みの建物（外壁・屋上防水改修済み）
- 部分改修済みの建物（全面改修後25年以上の建物含む）
- 未改修建物
- 経年20年未満の建物

施設の建築年

◎施設の建築年

重信キャンパスの大学設置（昭和48年）から、現在までの建築物は **45棟**である。

これまでの建物の寿命は、減価償却資産の観点による耐用年数50年程度であったが、インフラ長寿命化の観点により80年～100年を目指す方向性で適切な維持管理を実施することとしている。附属病院施設においては、機能改善に伴う増築を繰り返しているが既存施設の狭隘や増築による動線の複雑さが課題として顕在化している。新たな先進医療や地域医療への対応など取り巻く環境が変化し、求められる機能・役割を十分に発揮するために施設の老朽化・狭隘化の課題解消に向け“再開発整備”の検討が必要である。



経過年数：



1974年（経年51年）
医学部本館



1974年（経年51年）
中央機械室

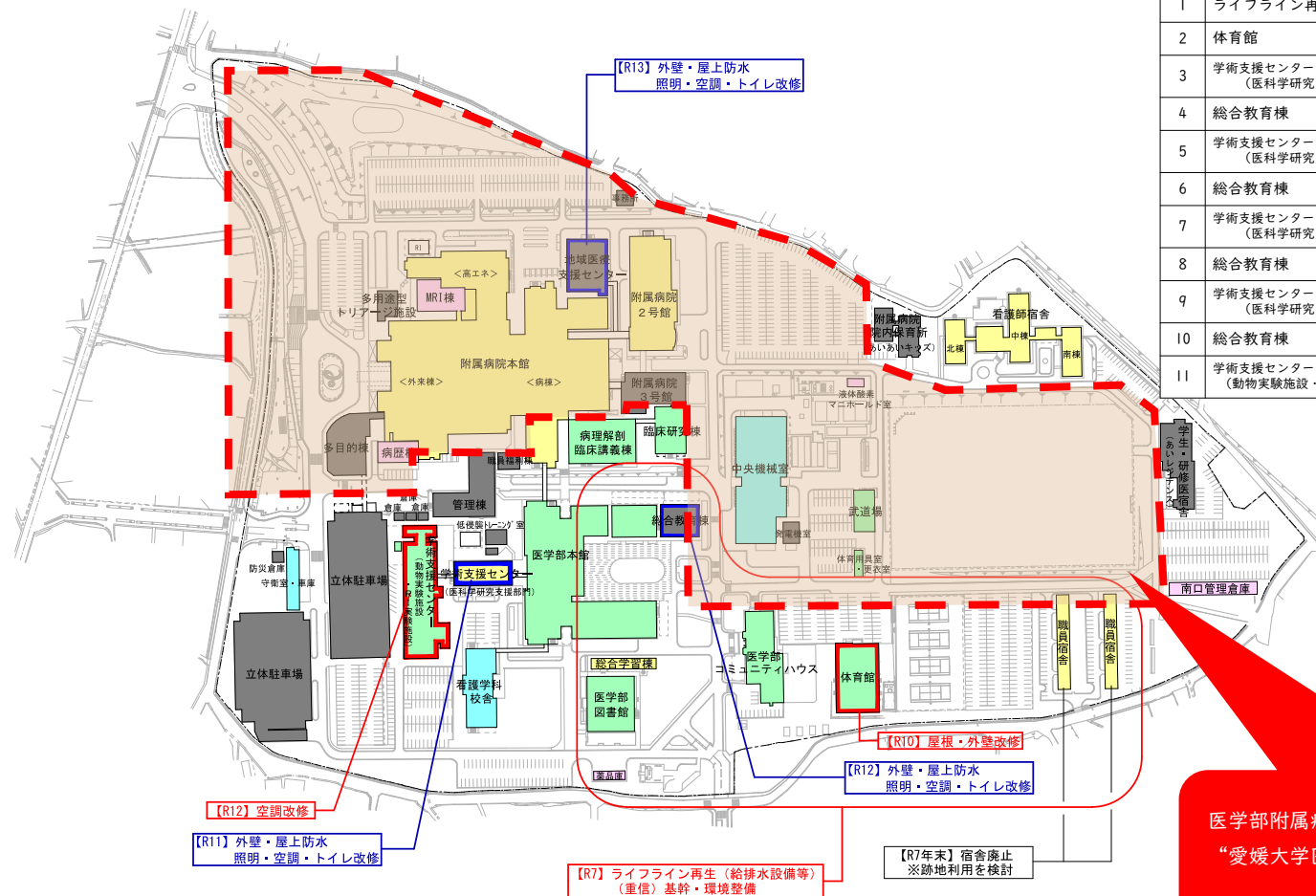


2001年（経年24年）
附属病院2号館

施設整備計画

◎重信キャンパス施設整備計画

重信キャンパスの整備計画は、“附属病院施設”は再開発整備を考慮することとし、“教育研究施設”等はインフラ長寿命化計画に基づいた整備計画とする。



年次計画表

令和7年5月1日現在

NO.	建物名	項目	キャンパスマスタープラン2025					
			第4期 中期目標・中期期間			第5期 中期目標・中期期間		
			2025	2026	2027	2028	2029	2030
			R7	R8	R9	R10	R11	R12
1	ライフライン再生	大規模改修	●					
2	体育館	屋根・防水改修				●		
3	学術支援センター (医科学研究支援部門)	外壁・防水改修					●	
4	総合教育棟	外壁・防水改修						●
5	学術支援センター (医科学研究支援部門)	空調改修					●	
6	総合教育棟	空調改修						●
7	学術支援センター (医科学研究支援部門)	照明改修					●	
8	総合教育棟	照明改修						●
9	学術支援センター (医科学研究支援部門)	トイレ改修					●	
10	総合教育棟	トイレ改修						●
11	学術支援センター (動物実験施設・RI実験施設)	空調改修						●

<色別凡例>

緑	…全面改修済みの建物(改修後25年未満の建物)	赤	…基幹・環境整備範囲
青	…性能維持改修済みの建物(外壁・屋上防水改修済み)	白	…未稼働建物
黄	…部分改修済みの建物(全面改修後25年以上の建物含む)	茶	…新築建物
紫	…未改修建物	EXT	…計画建物
赤	…施設整備費補助金による改修予定の建物	斜線	…予算化された建物
青	…経路経費による改修予定の建物	斜線	…予算化された建物
黒	…経年20年未満の建物		

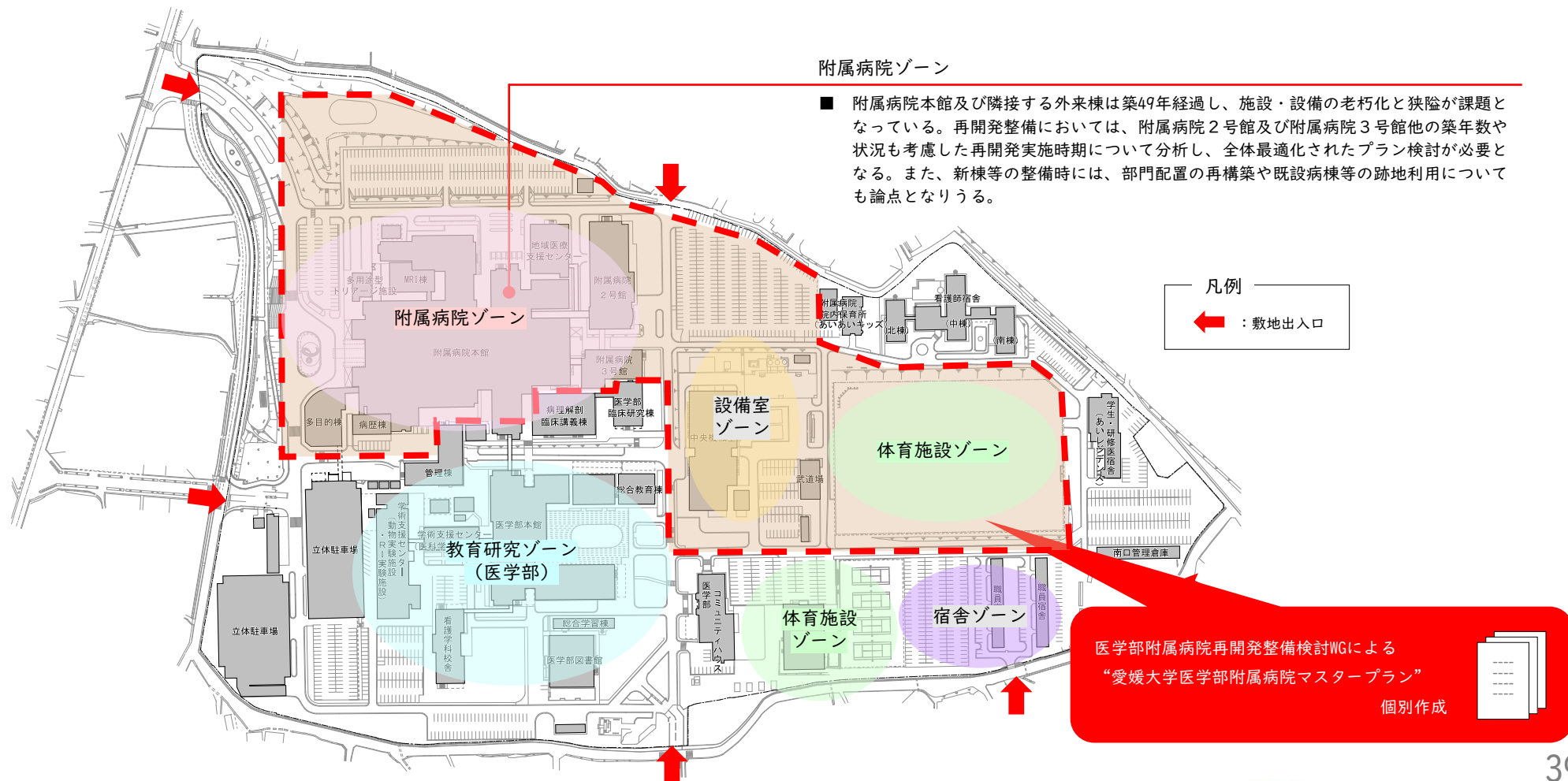
医学部附属病院再開発整備検討WGによる
“愛媛大学医学部附属病院マスタープラン”

個別作成

ゾーニング計画

◎キャンパスゾーニング、現状と課題

重信キャンパスにおいて、医学部本館及び附属病院本館・2号館・3号館を中心に、エネルギーセンター等附属設備をはじめ、患者用・職員用駐車場、職員宿舎、運動場等が広大な敷地に配置されているが、再開発時は必ずしも十分なスペースが確保されているとはいえない。患者・職員・業者の動線や、隣接する住宅地等への配慮、交通アクセスの検討も考慮が必要となる。



愛媛大学キャンパスマスタープラン2025

国立大学法人 愛媛大学

〒790-8577 愛媛県松山市道後樋又10番13号

TEL : [089-927-9105](tel:089-927-9105) FAX : 089-927-9107

E-mail : kkikaku@stu.ehime-u.ac.jp